

第2次小千谷市生涯学習推進計画

平成31年3月

小千谷市教育委員会

ごあいさつ



小千谷市においては、平成4年に策定しました「生涯学習推進基本構想」のもと、生涯学習の推進に向けて取り組んできました。

それから今までの間に、中越大震災や中越沖地震という二度にわたる災害を経験する中で、地域の絆の大切さが再認識される一方、中山間地域における集落存続など新たな地域課題も顕在化しました。

また、社会全体を見まわすと、少子高齢化や中山間地域の過疎化がさらに進むと同時に、AI技術などの科学技術の進展やグローバル化も著しく進歩しました。

国においては、平成18年に教育基本法が改正され、第3条に「生涯学習の理念」が明記され、それを受けて、平成20年に社会教育関連三法の改正や「新しい時代を切り開く生涯学習の振興施策について」（中央教育審議会答申）など、生涯学習社会の実現に向けた様々な提言がなされてきたところです。

小千谷市では、平成26年3月に「小千谷市生涯学習推進計画」を策定し、「いつでも、どこでも学びあい、その成果を適切に生かすことができる社会の実現」を基本目標として、さらなる生涯学習社会の実現に向けて市民と行政が一体となって取り組んできたところです。

今回の改定では、平成30年に実施した「生涯学習に関する意識調査」を参考にし、中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を見据えながら、最上位計画である「第五次小千谷市総合計画」の個別計画として『第2次小千谷市生涯学習推進計画』を策定いたしました。

この計画の中には、小千谷市が今後5年間に取り組む〔図書館を核とした複合施設の建設〕や〔(仮称)健康・子育て支援センターの整備〕という大きな柱も、生涯学習の視点から明記いたしました。

この「第2次小千谷市生涯学習推進計画」を柱に、地域課題や個々のニーズを的確に把握しながら、市民と行政が一体となってより良いまちづくり、生涯学習社会の実現に取り組んでいけるように、市民の皆様から一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にご尽力いただきました社会教育委員の皆様をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

平成31年3月

小千谷市教育委員会

教育長 松井 周之輔

目 次

第1章	生涯学習推進計画の策定にあたって	
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画の期間	2
4	基本理念と基本目標	2
5	計画の体系図	4
第2章	生涯にわたる学習機会の拡充	
1	時代の変化に対応する社会教育	5
2	幼児期における学習活動の推進	7
3	少年期における学習活動の推進	8
4	青年期における学習活動の推進	9
5	成人期における学習活動の推進	10
6	高齢期における学習活動の推進	11
第3章	社会の要請と個々のニーズに応える学習活動の拡充	
1	学校教育と社会教育の連携	13
2	現代的課題に関する学習の推進	14
3	家庭、地域とともに学ぶ意識の醸成	17
4	生涯スポーツ、健康の融合	19
5	文化・芸術活動の推進	20
第4章	学習成果を活用する仕組みづくり	
1	学習成果の発表・評価・活用	23
2	人材の育成・活用	24
第5章	市民の学びを支える環境づくり	
1	総合的な生涯学習情報の提供	25
2	生涯学習に関する相談体制の確立	26
3	生涯学習関係団体の相互連携	27
4	多くの人が学習に参加できる環境の充実	28
5	生涯学習施設の整備・拡充	28
第6章	計画の推進に向けて	
1	計画推進のための役割と期待	30
2	計画の進行管理	31
資料編		32

第1章 生涯学習推進計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本市では、生涯学習社会[※]の実現に向けて、平成26年3月に「小千谷市生涯学習推進計画（平成26年度～30年度）」を策定し、市民の生涯学習の推進に努めてきました。

この間、人口減少、少子高齢化、急速な技術革新、グローバル化などの社会情勢の変化に対応するため、行政のみならず、民間、各種団体やNPOなどもさまざまな学習の機会を、広く市民に提供するようになってきました。

平成30年に実施した「生涯学習に関する意識調査」では、生涯学習に取り組む市民が多くなったという成果が出ています。反面、「知識・技術、経験などの学習成果を、地域や社会での活動に生かす機会がなかった」、「各種地域団体の活動にあまり参加していない」という課題も出ています。一方、人口減少、少子高齢化という小千谷市の喫緊の課題に対し、人づくり、地域づくりに一層取り組んでいく必要もあります。

また、平成30年の中央教育審議会の答申では、「人づくり、つながりづくりを生かし地域づくりを進める」、「人生100年時代に向けた生涯学習社会の実現を進める」、「市民の学びと活動が循環できる環境を整える」、「ネットワーク型行政を進め地域活動を支援する」、「地域の学びの場と活動を活性化する人材の養成と活躍を促す」ことを目指し、人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興を図ることが示されています。

これらのことを踏まえ、生涯学習社会の実現に向けた方向性を定めるものとして計画を見直し、民間、各種団体やNPOなど多様な主体が連携・協働して推進する「第2次小千谷市生涯学習推進計画」を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、市の最上位計画である「第五次小千谷市総合計画」の個別計画として体系付けるもので、本市の生涯学習推進のための基本的な計画とします。

また、計画推進にあたっては、「第2次小千谷市子ども読書活動推進計画」、「小千谷市スポーツ推進計画」、「小千谷市立図書館及び（仮称）小千谷市立郷土資料館基本計画」、「おぢやっ子教育プラン」、「小千谷市人権教育・啓発推進計画」、「第4次おぢや男女共同参画プラン」など生涯学習に関連する計画と整合性を図ります。

[※]「生涯学習社会」とは、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」という生涯学習の理念をいう。（教育基本法第三条）

3 計画の期間

計画の期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。

ただし、社会情勢の変化、国・県の生涯学習施策等の方向性との整合を考慮しながら見直しを図ります。

4 基本理念と基本目標

本市における各種の計画の根幹は、市民憲章である「小千谷市民のねがい」に帰着します。「第五次小千谷市総合計画」においても、「小千谷市民のねがい」を基本理念として都市像、基本目標を掲げ、その実現に努力を重ねています。

本計画では、この都市像、基本目標の基に、生涯学習をとりまく現状と課題を明らかにし、生涯学習推進の具体的目標を設定して推進します。

小千谷市生涯学習推進計画目標の体系

[市民憲章]

小千谷市民のねがい

美しい山河にめぐまれ、深い雪におおわれるこの風土に生きた先人は、やさしく忍耐強い気風と、おおらかな雪国の文化と、独創的な産業を育ててきました。

これをうけつぐわたくしたち市民は、次の目標をかかげ、さらに光ある明日をめざして進みます。

みんなで「わがまち小千谷」を育てましょう。

雪にくじけぬ、たくましいまちに。

いたわりと真心のあふれるまちに。

健康で、文化の香り豊かなまちに。

はたらく喜びにみちた産業のまちに。

(昭和55年3月1日 制定)

都 市 像

「～ひと・技・自然～ 暮らして実感 地域の宝が輝くまち おぢや」

基 本 目 標

- 人を育み文化の香るまちづくり
- 魅力ある都市空間創出と暮らしやすいまちづくり
- 子育てにやさしく健康長寿で支えあうまちづくり
- 自然を活かした調和と安心のまちづくり
- 創造性と活力あふれる産業のまちづくり
- ふれあい、にぎわい、暮らし続けたいまちづくり

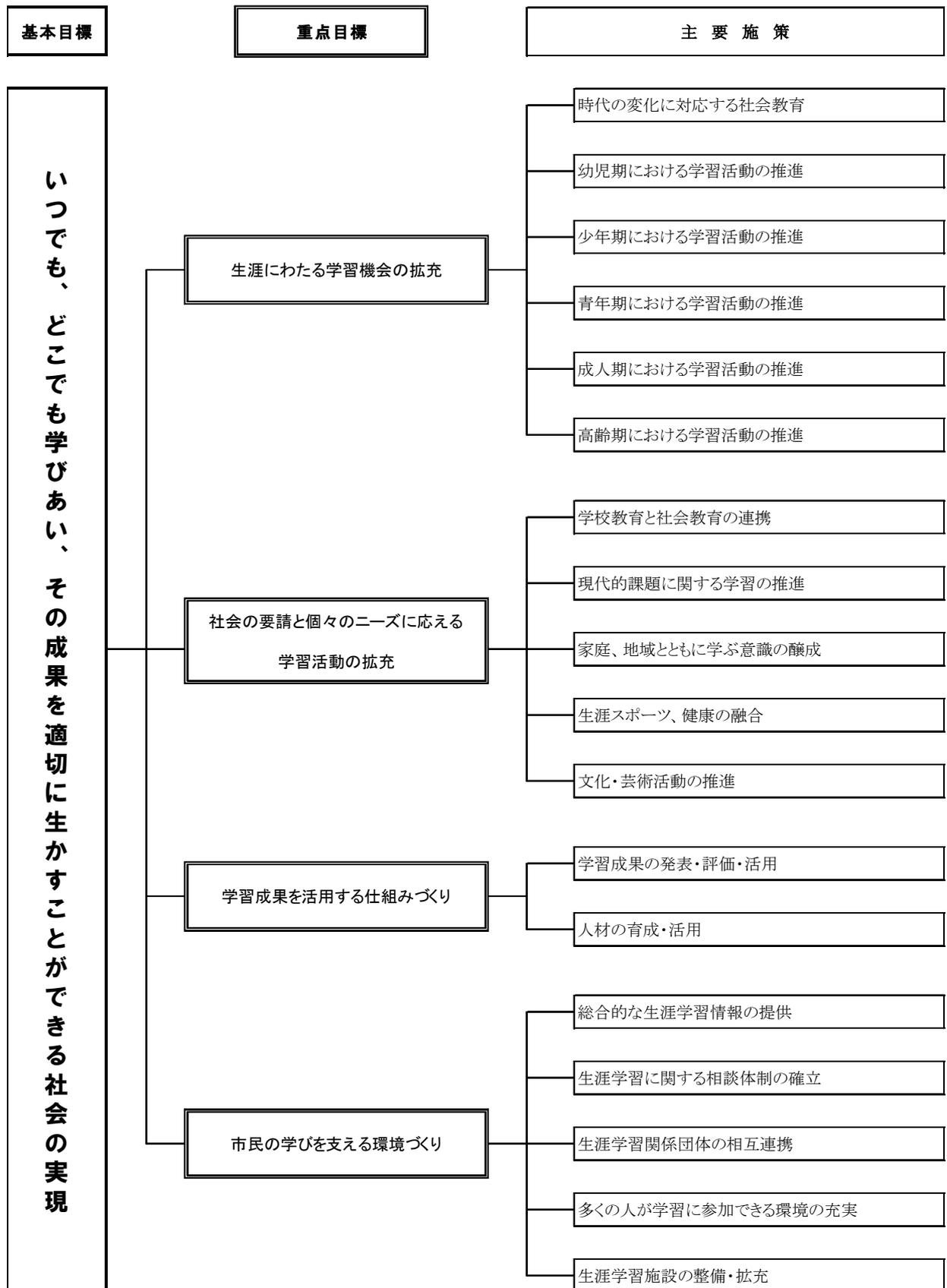
生涯学習推進の基本目標

いつでも、どこでも学びあい、その成果を適切に生かすことができる社会の実現

生涯学習推進の重点目標

- 1 生涯にわたる学習機会の拡充
- 2 社会の要請と個々のニーズに応える学習活動の拡充
- 3 学習成果を活用する仕組みづくり
- 4 市民の学びを支える環境づくり

5 計画の体系図



第2章 生涯にわたる学習機会の拡充

1 時代の変化に対応する社会教育

【現状と課題】

- 人口減少が進む中、高齢化率は上昇し、人生100年時代といわれる長寿化社会を迎えようとしています。2030年頃には、20代、30代の若い世代を中心とした生産年齢人口（15～64歳）の減少が予測されます。
- 格差問題としては、人口減少により地方の地域間格差が顕著に現れ、集落消滅の現実問題、賃金格差の拡大による子どもの貧困問題など、社会の構造変化に伴う課題があります。
- 急速に進むAIやロボットなどの技術革新により、更に効率化された社会になることが予測されます。
- 社会が大きく激動する時代を豊かに生きるためには、将来を見据えた多様な人材を育成する必要があります。変化する社会に適応していくためには、幼児期から高齢期まで生涯にわたり学び続けていくことが重要です。
- 本市では、現代的課題に対応した学習や、幼児期から高齢期までの生涯各期[※]に応じた講座・教室を開催し、市民の生きがいづくりや仲間づくりを支援しています。
- 関係機関や民間事業所などさまざまな団体が、教育・文化・スポーツに関する学習機会を多角的に提供しています。
- 意識調査によると、過去1年間に学習した内容は「職業上に必要な知識、技術に関するもの」が最も多く、男性の割合では一番高くなっています。しかし、講座・教室への参加者は固定化しており、男性の参加率が低い状況にあります。このため、男性の参加に結びつく学習内容の見直しを図る必要があります。また、「今、自分が関心を持っていること」については、「仕事」に関心を持っている割合が4.8%であり、前回の意識調査（平成25年）の8.7%と比較すると約4ポイント低下しています。「経済的安定」に関しても市民の関心は低くなっていることから、仕事への興味や安定した収入よりも、「自分や家族の健康」、「子どもの教育・将来」への関心が高まっています。現在置かれている生活への関心よりも、将来に対する展望への不安要因がうかがえます。
- 市民の学習スタイルや学習ニーズが多様化し、年代に応じた企画内容の見直しや広報手段の工夫など、より一層きめ細やかな対応が必要です。

[※] 本計画では、生涯各期における年齢をおおむね幼児期は0歳から6歳、少年期は7歳から15歳、青年期は16歳から30歳、成人期は31歳から64歳、高齢期は65歳以上に分類しています。

「今、自分が関心を持っていること」の増減率が大きい項目の比較（抜粋）								
	選択項目（抜粋）	総計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
前回調査 （H25）	自分や家族の健康	26.4%	10.8%	16.5%	19.5%	22.9%	34.1%	40.3%
	子どもの教育・将来	8.4%	3.2%	15.7%	24.9%	8.8%	1.6%	0.6%
	仕事	8.7%	16.1%	11.3%	11.2%	10.7%	6.2%	2.2%
	経済的安定	12.0%	12.9%	9.6%	16.6%	15.1%	9.3%	8.8%
	老後の生活	16.3%	1.1%	3.5%	4.1%	19.5%	26.7%	24.9%
	趣味・娯楽	9.6%	24.7%	14.8%	8.9%	8.3%	6.6%	5.0%
	選択項目（抜粋）	総計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
今回調査 （H30）	自分や家族の健康	29.5%	13.3%	15.1%	23.8%	30.5%	37.3%	33.3%
	子どもの教育・将来	10.4%	8.9%	19.8%	23.2%	11.9%	2.3%	2.5%
	仕事	4.8%	13.3%	7.0%	5.0%	4.9%	3.9%	1.7%
	経済的安定	9.2%	8.9%	14.0%	13.8%	8.8%	6.9%	5.8%
	老後の生活	15.9%	0.0%	4.7%	4.4%	17.3%	26.1%	19.2%
	趣味・娯楽	7.2%	20.0%	7.0%	5.0%	8.0%	5.2%	10.0%

資料出典 生涯学習に関する意識調査（H25・H30）

【施策の方向】

○生涯各期における学習機会の拡充

- ・子どもから高齢者まで多様な世代に応じた学習機会を提供するとともに、市民が学びたい内容（要求課題）と学んでほしい内容（必要課題）をバランスよく提供します。
- ・市民自らの、人口減少、少子高齢化に伴う地域課題解決に対応する学びを支援します。
- ・多様化・個別化する生涯学習ニーズに対応するため、関係機関との連携を強化し、幅広い学習内容の機会を提供します。
- ・職業に必要な知識・技術を身に付けるための社会人を対象とした企画や、男性の参加を促す講座など、参加しやすい環境づくりを行うとともに、受講者の理解度や意欲・関心など、講座の目的の達成度を確認する成果指標を設定し、評価を行います。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分※	担当課等
多様な学習機会の提供／生涯学習集中セミナー、家庭教育講座など	充実	生涯学習課・公民館
地域課題解決のための公民館分館・各種団体等の活動支援	充実	生涯学習課 観光交流課
成果指標の設定／受講者へのアンケートの実施、事業のふりかえり	充実	生涯学習課

※ 実施区分の「充実」とは、既に実施され、今後はさらに内容を拡大する事業をいいます。
 実施区分の「継続」とは、今後も社会状況の変化に伴う見直しを行いながら続ける事業をいいます。
 実施区分の「新規」とは、計画期間内に新たに実施予定の事業をいいます。

2 幼児期における学習活動の推進

【現状と課題】

- 幼児期は、子どもの基本的な生活習慣や人間形成の基礎を培う重要な時期にあたりますが、家族構成や暮らしの変化、地域とのつながりの希薄化が顕著となっており、子育てへの不安感や孤立感を抱いている家庭が多くなってきています。地域社会全体で家庭教育を支える仕組みづくりが必要とされています。
- 本市では、平成27年3月に「小千谷市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育てを社会全体で支援する環境づくりを推進しています。
- 認定こども園・保育園などと連携し、保護者を対象とした家庭教育講座や、親子で運動する「親子運動教室」などを実施しているほか、子育て支援センターでは育児相談なども実施しています。
- 市の子育て支援を行う複数の関係機関が連携し、利用者の利便性を図り、子育て支援や家庭教育を効率的に推進する必要があります。

【施策の方向】

- 子育て支援体制の拡充
 - ・「小千谷市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援を推進します。
- 子どもの発達段階に対応した学習機会の拡充
 - ・公民館や子育て支援センターなどにおいて、家庭教育に関する講座や教室を開催し、子どもの発達段階に応じた学習機会を充実します。
 - ・認定こども園・保育園、学校や地域団体などと連携し、親子で学ぶ機会の提供や家庭教育の大切さを啓発します。
 - ・子育てに関する窓口を一元化し、ワンストップサービスの提供を目指す（仮称）健康・子育て支援センターを拠点とした家庭教育の学習機会を提供します。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
小千谷市子ども・子育て支援事業計画の推進	継続	社会福祉課 生涯学習課
(仮称)健康・子育て支援センターを拠点とした家庭教育の推進	新規	社会福祉課 保健福祉課 健康センター 生涯学習課
子育て講座の実施／すこやか子育て教室、子育てサークル支援、家庭教育地域交流振興事業など	継続	子育て支援センター 公民館
乳幼児健康診査母子保健事業を活用した学習機会の提供	継続	健康センター
小千谷市子ども読書活動推進計画の推進	継続	図書館

3 少年期における学習活動の推進

【現状と課題】

- 少年期は、さまざまな学習や人との出会いを通して、社会に巣立つまでの間に、成人としての土台を築く時期であり、この時期の学習が将来の生き方にも大きく影響を与えます。児童生徒が主体的に学び続け、考え、判断し、問題解決の能力を培うとともに、自己の可能性を發揮して心豊かな学校生活を送れるよう支援する必要があります。
- 家族構成や暮らしの変化、地域とのつながりの希薄化などの現状を踏まえ、学校との連携や協働を推進し、地域社会全体で家庭教育を支える必要があります。
- 本市では、「おぢやっ子教育プラン」を新教育プランとして改定し、「自ら考え心豊かにたくましく生きる 小千谷の子ども」を目指し、学校・家庭・地域・教育センターの役割分担を定めています。
- 少年期の体験活動において、豊かな感性を育む機会や、社会に関わることができる機会の創出が求められていることから、青少年育成指導委員による親子手作り教室やキャンプ活動などの体験活動の機会を提供しています。

【施策の方向】

- 特色ある教育活動の推進
 - ・各種資料や地域資源の活用を通して、ふるさと小千谷の歴史、自然、産業や文化を学び、郷土を誇れる子どもを育てます。
 - ・読書や多様な体験活動、他地域や異文化の人々との交流を奨励し、未来に羽ばたく子どもを育てます。
- 体験活動の推進
 - ・豊かな情緒や規範意識、コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、他者への思いやり、他者と協働してものごとを成し遂げる力などを育てるため、学校や地域団体と連携し、青少年の体験活動を推進します。
 - ・防災に関する学習資料やおぢや震災ミュージアム「そなえ館」などの活用を通して、震災体験を風化させることなく、日頃から防災意識を持つ子どもを育てます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
ふるさと学習の推進	継続	学校教育課 生涯学習課
夢や希望をはぐくむ教育活動	継続	学校教育課 生涯学習課
キャリア教育推進事業	継続	学校教育課
体験活動の実施／親子手づくり教室、青少年キャンプ、防災教育活動など	継続	学校教育課 公民館 そなえ館

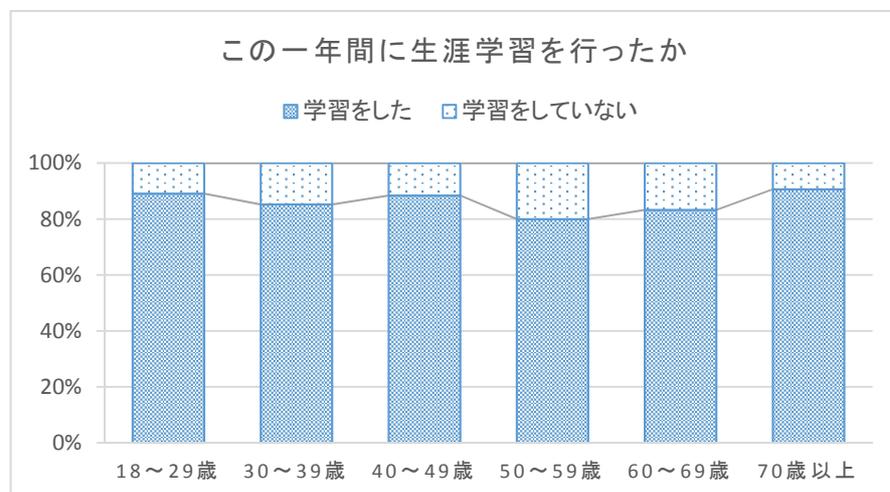


青少年育成事業手作り体験キャンプ（おちゃ〜る）

4 青年期における学習活動の推進

【現状と課題】

- 地域の将来を担う人材の育成が一層重要になることから、在学期間中に自らの将来設計をイメージしながら、インターンシップなどの社会体験を基に、勤労観・職業観を確立し、自立していく力を身に付ける必要があります。
- AIなどの技術革新や産業構造の変化に対応できるよう、学校卒業後も継続的に新しい知識や技能を学び、自己の能力を高める必要があります。
- 本市では、在職者のキャリアアップや技術継承による人材育成支援のための「テクノ小千谷名匠塾」や、若年求職者などに向けた職業能力開発や就労を支援しています。
- 勤労青少年ホームではさまざまな事業を展開していますが、参加者は減少傾向にあります。今後は、勤労青少年ホームのあり方を検討する必要があります。
- 若者の学びを創るため、若者が興味を持てる講座・教室の企画や、若者が中心となってまちづくりを考える機会が求められています。



資料出典 生涯学習に関する意識調査（H30）

【施策の方向】

○キャリア教育の推進

- ・ 勤労観や職業観などの意識が高く、主体的に将来を考えることができる人材の育成を図るため、在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等への就業体験を行う高校生・大学生のインターンシップを推進します。

○在職者のスキルアップ支援

- ・ 技術革新や産業構造の変化に対応できる技能者の人材育成・技能継承を図るため、在職者に対するスキルアップを支援します。

○公民館を拠点とした事業の推進

- ・ 高校生の発表や活躍の場を創出するとともに、地域への社会参加を推進します。

○勤労青少年ホームを拠点とした事業の推進

- ・ 若者の意見を取り入れて、若者が新たな知識・能力を身に付けていくための最初のステップとなる講座・教室を企画します。
- ・ おぢやまつりや勤労青少年ホーム祭などのイベントを通じて、同世代及び異世代との交流の場を創出します。
- ・ 若者を中心に、まちづくりを考える学習機会を提供します。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
キャリア教育推進事業	継続	商工振興課
中小企業人材育成事業（中小企業研修補助金）	継続	商工振興課
テクノ小千谷名匠塾補助	継続	商工振興課
若者に魅力ある講座・教室の実施	充実	生涯学習課・公民館
高等学校等連携事業	新規	生涯学習課
交流の場の創出／おぢやまつり、勤労青少年ホーム祭への参加促進など	充実	勤労青少年ホーム

5 成人期における学習活動の推進

【現状と課題】

- 成人期は、社会的、経済的にも中心的な役割を担い、社会人としての生活スタイルが安定していく時期ですが、仕事や子育て、家庭の事情等によって学習や地域活動に時間がとれない時期でもあります。こうした世代が抱える家庭生活の課題解決や子どもへの家庭教育の支援が必要とされています。
- 仕事中心の生活から来るべき高齢期に向けて、早い段階から生きがいつくりの充実、学習活動への取組など、地域社会へ積極的に関わり、仕事以外の人間関係を幅広く築くとともに、健康維持・増進へつながるスポーツにも取り組む必要があります。

○人口減少に歯止めがかからない状況が予測される中、特に20代、30代を中心とした生産年齢人口が減少し、老年人口（65歳以上）の割合が増加していく状況を踏まえ、人々の暮らしや地域社会の活力の向上と維持に向けた、地域課題解決のための学びを推進する必要があります。

【施策の方向】

○学習機会の充実

- ・中高年から高齢期へスムーズに移行し、人生100年時代を豊かに生きるため、趣味・教養を広げる学習や、新しい知識・技術、思考力・判断力等を学び、社会参加や社会貢献につながる学習など、個々のニーズに応じた多様な学習機会を提供します。
- ・これまでに獲得した学習成果や経験を生かせる人材、意欲的に地域づくりに参加する若者の人材育成などを目的とした学習機会を提供します。

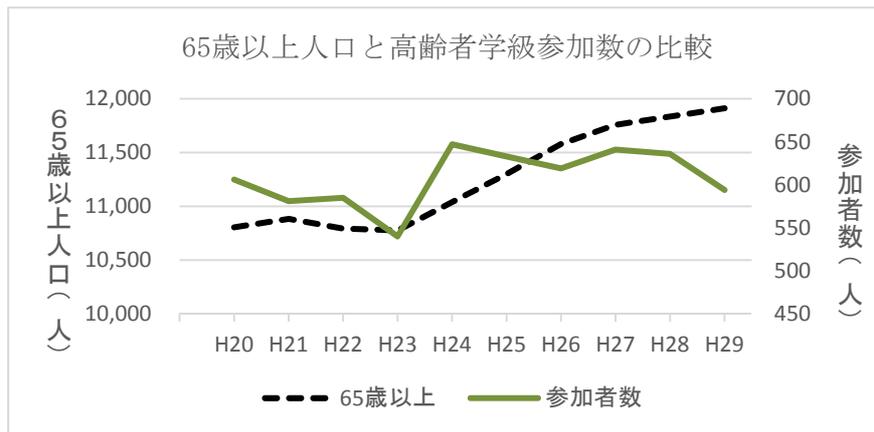
【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
多様な学習機会の提供／生涯学習集中セミナー、公民館分館役員研修会など	継続	生涯学習課・公民館
青少年育成指導者養成講座の実施／長岡地域定住自立圏スポーツ指導者養成講座、青少年育成指導委員研修など	継続	生涯学習課

6 高齢期における学習活動の推進

【現状と課題】

- 心身ともに健康で、自由な時間を持つ高齢者が増加し、社会の役に立ちたい、ボランティア活動をしたいなど、高齢者の社会貢献への関心が高まっています。
- 多様な知識・技術・経験を有するシニア層の発掘や、活躍の場の普及・啓発を促進し、豊かな経験を地域で生かせる環境整備が必要とされています。
- 意識調査によると、希望する学習内容は「家庭生活の向上に関するもの（衣食住など日常に関する知識や技術、消費生活、老後の過ごし方、家族関係など）」、「健康の維持や管理に関するもの（健康法、ウォーキング、看護や介護法など）」の志向が高くなっています。
- 現在、市内7地区で高齢者学級を開催していますが、高齢化率が33.1%（平成30年3月31日現在）で平成25年3月31日時点から4ポイント以上も上昇したにもかかわらず、参加者の割合は年々減少しています。
- 長い人生を心豊かに、生きがいを持ちながら送るためには、高齢期はもとより、成人期から積極的に学習活動に取り組むきっかけづくりが必要であり、その支援が求められています。



資料出典 65歳以上人口：市民生活課、高齢者学級参加者数：公民館

【施策の方向】

○学習機会の充実

- ・高齢者福祉計画の基本理念「ふれあい支えあい 高齢者が健やかに 安心して暮らせる活力あるまち おぢや」を基に、高齢者の学習意欲等を満たし、自己実現を図るための施策を充実します。
- ・豊富な知識や技術を有する高齢者を、積極的に市民の学びのための人材として生かすような取組や環境整備を進めます。
- ・公民館等における、高齢者のための講座・教室を充実させるとともに、世代間交流を促進し、高齢者が交流しながら楽しく学び、生き生きと活動できる環境整備に努めます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
多様な学習機会の提供／高齢者学級、若返り健康教室など	充実	生涯学習課・公民館
ふれあい いきいきサロンの開催	継続	社会福祉協議会
生きがい対応型デイサービス（デイホーム）の開催	継続	保健福祉課
ボランティア参加の促進／学習ボランティア養成事業	継続	生涯学習課・図書館
生きがいを持って学べる環境づくり／学校支援ボランティア活動など	継続	生涯学習課・公民館



富久寿大学（高齢者学級）の親子陶芸教室世代間交流事業

第3章 社会の要請と個々のニーズに応える学習活動の拡充

1 学校教育と社会教育の連携

【現状と課題】

- 社会状況の急激な変化に伴い、家庭状況も大きく変化しています。三世代世帯の割合は減少し、ひとり親世帯の割合は増加傾向にあります。また、共働き世帯の増加に伴い、学童保育の需要も増えています。
- スマートフォンやタブレット端末など、さまざまなインターネット接続機器の普及に伴い、情報化の進展が青少年を取り巻く環境に大きく影響しています。このような環境は、情報化社会に欠かせない一方で、人と人とのつながりが希薄になり、自然の中で遊び、互いが影響し合う活動の機会も少なくなります。また、平成24年度から実施している子どもの生活リズムを把握する「生活調査」のメディア使用時間では、テレビやゲームの時間が3時間を超える小学生が多く、幼児ではテレビやビデオを見る時間が2時間近くとなっており、メディアと関わる時間が長くなっています。
- 生涯にわたって学び続けていくために、社会性や職業観などの基礎や、心身ともに健全な青少年を育成するための体験活動など、学校教育と社会教育の充実を図る必要があります。
- 本市では、放課後子ども教室の実施や、地域の人材を学校へ紹介するなど、学校・家庭・地域などが連携して各種事業を進めています。社会教育と学校教育の連携・協働がより一層求められます。

【施策の方向】

- 学校支援体制の充実
 - ・学校教育を担う教職員に、地域の歴史や文化などの学習情報を積極的に提供します。
 - ・学校支援活動や放課後等支援活動など、学校を拠点とした取組を推進します。
- 体験活動の推進（再掲）
 - ・豊かな情緒や規範意識、コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、他者への思いやり、他者と協働してものごとを成し遂げる力などを育てるため、学校や地域団体と連携し、青少年の体験活動を推進します。
 - ・防災に関する学習資料やおぢや震災ミュージアム「そなえ館」などの活用を通して、震災体験を風化させることなく、日頃から防災意識を持つ子どもを育てます。

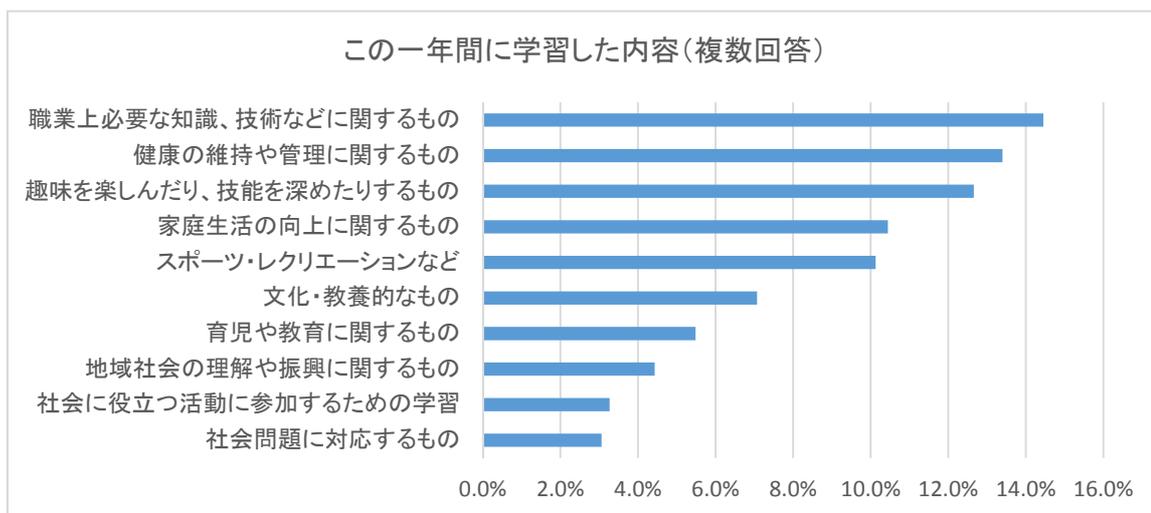
【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
地域連携担当教職員との情報共有	充実	生涯学習課・公民館
学校を拠点とした取組／放課後子ども教室に携わるボランティアの養成、地域の人材紹介など	充実	生涯学習課・公民館
(再掲) 体験活動の実施／親子手づくり教室、青少年キャンプ、防災教育活動など	継続	学校教育課 生涯学習課・公民館 そなえ館

2 現代的課題に関する学習の推進

【現状と課題】

- 人口減少、少子高齢化、急速な技術革新、経済のグローバル化など、急激に社会が変化するとともに、人々の暮らし方や価値観も大きく変化しています。また、人々の生活に直結する賃金格差や地域間格差などの問題は拡大しています。
- 社会状況の変化により、中心市街地の空洞化が進み、若者世代、子育て世代が住み続けたいと思えるような魅力あるまちづくりに取り組む必要があります。図書館は地域の情報拠点、生涯学習の拠点、交流と創造の拠点として、世代を問わず利用できる公共施設です。現在の図書館は、築後40年を経過し、耐震補強が必要なことから、図書館を核とした複合施設整備による新たな賑わいを創出する学習拠点が求められています。
- 意識調査によると、過去1年間に学習をした内容は、各世代を通じて「職業上必要な知識、技術などに関するもの（仕事に関係する知識、技術、仕事上のパソコン操作など）」や「健康の維持や管理に関するもの（健康法、ウォーキング、看護や介護法など）」の割合が高い反面、「社会問題や社会の変化に対応するもの（経済、教育、人権、男女共同参画など）」を学習している割合は低くなっています。
- 市民が望む学習分野では、「家庭生活の向上に関するもの（衣食住など日常生活に関する知識や技術、消費生活、老後の過ごし方、家族関係など）」が年代を問わず高くなっています。これは、人々の生活に直結する社会状況の変化が著しいため、それに対応するため知識や技術などを習得したいという姿勢が現れています。社会問題や地域課題に対応する学習は、よりよい社会を築くために必要な分野であることから、今後も地道に取り組む必要があります。



資料出典 生涯学習に関する意識調査 (H30)

【施策の方向】

○地域づくりを支える学習機会の充実

- ・地域づくりを持続的に取り組むためには、自分の地域を知ることが大切です。自分の地域を見直し、自分の地域の団体と連携しながら、地域の課題解決につながる学習機会の充実を図ります。

○図書館を核とした複合施設整備による新たな拠点づくりの推進

- ・新たな拠点づくりでは、賑わいと活力の創造に重要な役割が期待されることから、図書館を核とした（仮称）郷土資料館などの複数の機能を有する複合施設を整備し、人と人とが交流する賑わいのある学習拠点を目指します。

○国際理解を深める学習の充実

- ・公民館では、外国人のための日本語教室を開催しています。コミュニケーション能力を高めることで、日本での生活がより良いものとなるよう、今後も学習機会を提供します。また、外国人と交流する団体の支援をします。

○消費者教育の推進

- ・市民一人ひとりが消費者として主体的に判断できるように、関係機関と連携し、啓発や学習機会の提供を行います。

○情報活用教育の推進

- ・誰もがインターネットを利用し安全に必要な情報を得たり、情報発信ができるよう、学校教育や社会教育における学習機会の充実を図ります。
- ・インターネット上の有害情報に関する啓発を行い、正しい知識を持って安全に情報メディアを活用し、市民が犯罪などトラブルに巻き込まれないための情報を提供します。

○平和教育の推進

- ・本市は、平成4年に非核平和都市を宣言しました。平和の尊さや命の大切さ、核兵器の恐ろしさなど非核平和の大切さを学習するため、原爆記録パネル展などの平和教育の推進に引き続き取り組みます。

○障がいのある人の学習活動支援

- ・障がいのある人が、生涯を通じて教育、文化、スポーツに親しむことができるよう、関係機関や団体と連携して取り組みます。

○意識を高める学習の推進

- ・「小千谷市人権教育・啓発推進計画」に基づき、「互いの人権を尊重し、支え合いながら安心して暮らせるまちの実現をめざして」の基本理念のもと、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題などさまざまな人権問題に対し、関係機関と連携し人権意識を高める学習の充実を目指します。
- ・「おちや男女共同参画プラン」に基づき、「男女が共に参画できる心豊かなまち」を目指し、男女共同参画社会の実現に向け、取り組みます。
- ・「小千谷市環境基本計画」に基づき、「人間と自然との共生の下で恵み豊かな環境を将来に伝える」ことを目指し、わかりやすい環境教育・環境学習を推進します。

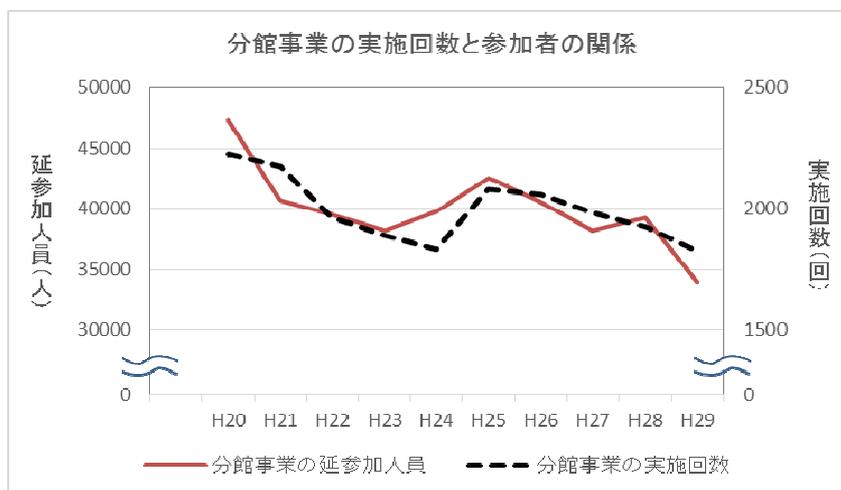
【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
地域づくりを支える学習機会の充実／分館役員研修、まちづくり講座など	充実	生涯学習課・公民館 観光交流課
図書館を核とした複合施設の整備／学習拠点の創出	新規	生涯学習課・図書館
国際理解を深める学習の充実／外国人のための日本語教室、海外研修派遣支援など	充実	生涯学習課
消費者教育の推進／消費生活相談、消費生活出前講座など	継続	市民生活課 生涯学習課
情報活用教育の推進／有害情報に関する啓発活動、パソコン講座など	継続	教育センター 青少年育成センター 楽集館
平和教育の推進／原爆記録パネル展の開催など	継続	学校教育課 企画政策課
連携による障がいのある人の学習活動支援／プログラム作り及び実施	新規	生涯学習課 社会福祉課
人権意識を高める学習の充実／人権講演会、いじめ防止教育など	充実	市民生活課 学校教育課 生涯学習課
男女平等意識を高める学習の推進／男女共同参画講演会など	充実	市民生活課 生涯学習課
環境教育・環境学習の推進／小中学校における環境教育、環境保全活動を実践できる人材育成など	継続	市民生活課 学校教育課

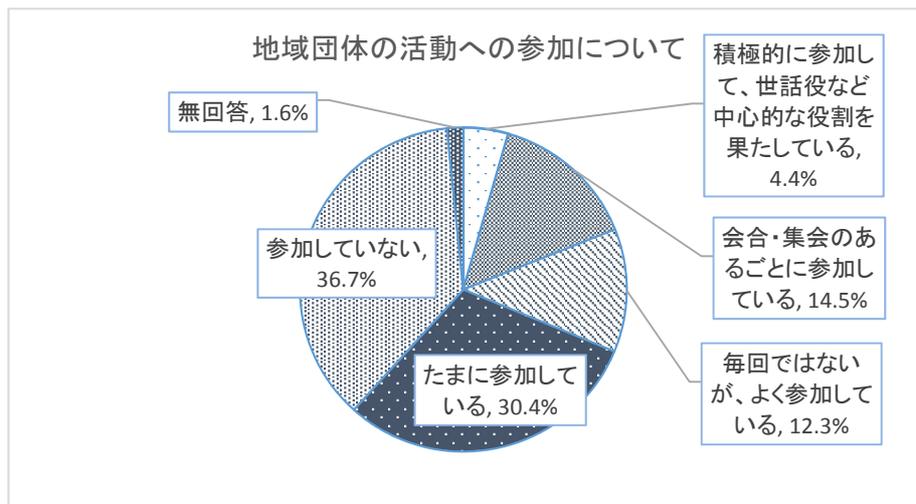
3 家庭、地域とともに学ぶ意識の醸成

【現状と課題】

- 人口減少、少子高齢化といった社会構造の変化により、集落の維持機能が低下し、地域の人々のつながりや付き合いが希薄になり、地域コミュニティの弱体化が進んでいます。
- 意識調査では、町内会・老人クラブ・町内青（成）年会などの地域団体活動への参加状況について、約61%の人が何らかの形で関わっています。参加していないという人の割合は約37%で、前回調査（平成25年）の結果から4ポイント減少しています。「地域のニーズを知りたい」といった意見もあることから、地域への理解を深める学習活動が必要です。
- 地域と学校が連携し、子どもたちの豊かな学びや健やかな成長と地域活性化の双方の利点を生み出す活動を進めることが大切です。
- 家庭教育では、家族構成や地域社会の変化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加するなど、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりが求められています。
- 子どもの睡眠不足やメディア機器の長時間使用など生活習慣の乱れが、学習意欲・体力・気力の低下の要因の一つとして指摘されています。
- 地域社会には、子どもから高齢者まで年代の異なる人が暮らし、経験が豊富な人やその経験を必要としている人がいます。地域活動を通して、地域に伝わる文化や伝統の大切さを理解し、お互いに教え学びあう意識や環境整備が必要です。
- 公民館分館のある地域では、各種講座やイベントを実施し、地域の活性化を図っていますが、少子高齢化が進み、参加者の減少や固定化などにより事業が停滞しており、事業の活性化が求められています。
- さまざまな災害を通して、中越大震災の被災経験を風化させることなく、市民が主体となって地域コミュニティを強化できるような地域の絆づくりが求められています。



資料出典 分館事業実施回数と参加者の関係：公民館



資料出典 生涯学習に関する意識調査 (H30)

【施策の方向】

○地域における連携の強化

- ・地域には、町内会をはじめ学校、PTA、老人クラブ、企業、公民館分館などそれぞれの団体の強みを生かし、連携しながら地域コミュニティの強化を図り、防災対応や地域の課題解決に向けた取組を進めていきます。

○地域と学校の連携

- ・地域と学校が連携し、学校支援活動や地域行事を効果的に進めます。

○地域で学ぶ環境づくり

- ・地域のさまざまな活動を通して、地域に伝わる文化や伝統を理解することが重要であることから、地域学習の機会の充実を図ります。
- ・公民館分館などで、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」のための学習機会の充実を図るとともに、核となる人材の育成に努めます。
- ・公民館分館活動において、地域と家庭が連携して子どものメディア教育をテーマとした学習に取り組むように啓発します。

○食べて、動いて、よく寝よう運動の推進

- ・市の施策として、子どもの成長には「食べて、動いて、よく寝よう」をスローガンに、バランスのとれた食事、適切な運動、十分な睡眠など規則正しい生活習慣の普及運動を推進します。

○公民館分館組織の見直し

- ・人口減少、少子高齢化の影響や地域の実情を把握し、効率的に地域の活性化を図るため、今後の公民館分館組織のあり方を検討します。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
地域の課題解決に向けた取組／都市との交流事業、集落間交流など	継続	観光交流課 公民館
地域に関する学習機会の充実／まちづくり講座、まちあるき講座など	継続	観光交流課 公民館
活動団体の育成支援／NPO 法人設立支援、まちづくり活動支援、公民館分館の運営支援など	継続	観光交流課 公民館
食べて、動いて、よく寝よう運動の普及運動	新規	健康センター 社会福祉課 学校教育課 生涯学習課
学校支援活動のボランティアの育成・紹介	継続	生涯学習課・公民館

4 生涯スポーツ、健康の融合

【現状と課題】

- 平成30年3月策定の「小千谷市スポーツ推進計画」に基づき、市民が生涯にわたり健康でいきいきと過ごし、「だれもが、いつまでも、スポーツを楽しむ」を実現するためのスポーツ振興と地域活性化の推進を図っています。
- 平成28年12月「スポーツや運動に関する意識調査」では、1週間に1日以上運動する成人の割合は41%であり、前回調査（平成25年）と比較すると10ポイント以上向上していますが、目標の50%には至っていません。また、スポーツや運動に期待することは、「健康維持や体力づくりのため」が約8割で、どの年代でも高い割合を示しています。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてスポーツへの関心が高まっています。これを契機に生涯にわたり運動やスポーツの習慣化を図るため、スポーツに関する情報提供や啓発活動に努め、市民の関心と意欲を高める必要があります。
- 健康づくりや健康寿命の延伸のため、さまざまな機関とこれまで以上に連携して事業を推進することが重要です。

【施策の方向】

- 生涯スポーツの推進
 - ・スポーツ活動を行うNPO法人や関係団体と連携しながら、各種教室を開催し、市民がライフステージに合わせて運動やスポーツを楽しみ、健康につながるような機会の充実を図ります。
 - ・仕事や家事が忙しい働き盛りの世代が、自主的に体を動かすように啓発を行うなど、市民ニーズにあった施策を推進します。

- ・さまざまな大会・教室を通して、小千谷市スポーツ推進計画の「する」「みる」「ささえる」スポーツへの機運を醸成します。

○健康づくりの推進

- ・平成31年3月策定の「第3期小千谷市健康増進計画・食育推進計画」に基づき、健康づくりへの意識啓発や市民の食育を推進するため、関係機関と連携し取り組めます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
小千谷市スポーツ推進計画の推進	継続	生涯学習課
多様な学習機会の提供／高齢者を対象とした「若返り健康教室」、「いきいき健康教室」、「100日実践運動」の推奨など	継続	健康センター 生涯学習課・公民館
小千谷市健康増進計画・食育推進計画の推進	継続	健康センター

5 文化・芸術活動の推進

【現状と課題】

- 本市は、市民憲章で「健康で、文化の香り豊かなまちに」を謳い、文化の振興を図っています。
- 市内には音楽、美術などの芸術・文化活動を行う多くの団体があり、施設使用料の減免や、国際交流、文化、スポーツ振興基金からの補助など各種支援を行っています。
- 芸術文化に触れる機会として、優れた音楽や芸術などの鑑賞や市美術展の開催、市民学習センター「楽集館」での企画展示などを行い、市民が気軽に芸術・文化に親しめる機会を提供しています。
- 芸術活動に親しむきっかけづくりとして、美術教室などの学習機会を提供していますが、すそ野が広がっていません。引き続き、気軽に親しむ講座・教室の充実を図る必要があります。
- 高校生などの芸術活動推進のため、学習機会や活躍の場の提供、地域と連携して共に芸術活動を盛り上げていく取組を進める必要があります。
- 市内には、地域の歴史を今に伝える文化財が多く残されており、所有者や管理者によって大切に保存されています。しかし、文化財に関する知識や、大切なものという認識の不足から廃棄される事例もあるため、文化財を活用した取組等により、文化財の重要性を市民に対してさらに啓発する必要があります。
- 多様な団体と連携して、まちの歴史や自然、文化財等を活用するまちづくり活動や、市外の人との関わりをまちの元気づくりに生かすことが求められています。

- ユネスコ無形文化遺産に登録された「小千谷縮」に代表される無形文化財や民俗文化財など、人により伝承される文化財は、後継者の養成を進める必要があります。
- 郷土資料（文化財等含む）を広く市民に公開するための、施設整備や学習機会が求められています。

【施策の方向】

- 市民の文化・芸術活動の推進
 - ・豊かで潤いのある生活を送るために、多くの市民が芸術や文化に触れる機会を提供します。
 - ・気軽に親しめる初心者向けの講座・教室の充実を図るとともに、子どもたちへの芸術鑑賞機会の提供に努めます。
- 郷土資料（文化財等含む）を公開する施設の整備
 - ・図書館を核とする複合施設の中に（仮称）郷土資料館を整備し、公開のための資料の収集及び整理を行います。
- 文化財や伝統文化の保存・継承と活用
 - ・文化財や伝統文化の保存と継承のため、普及啓発と担い手の育成に取り組みます。
 - ・地域の歴史や文化財を活用した企画展などを実施し、地域への理解を深められる学習機会を提供するとともに、文化財保護の推進を図ります。
 - ・2019年の国民文化祭を契機として、関係部局や団体と連携し、文化財を活用した交流人口・関係人口の増加に取り組みます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
（仮称）郷土資料館の整備	新規	生涯学習課 建設課
文化財の活用及び周知／国民文化祭市独自事業の開催	新規	生涯学習課 商工振興課 観光交流課
芸術文化に親しむ機会の提供／小千谷市美術展覧会の開催など	継続	生涯学習課
学習機会の充実／文芸おぢや・ジュニア版の発行	継続	図書館、公民館
文化財、伝統文化の保存・継承・活用／（仮称）郷土資料館、楽集館の企画展示	継続	生涯学習課



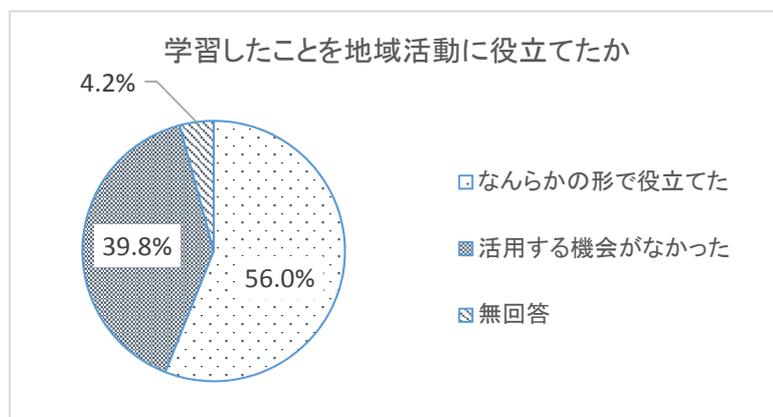
なつかしの民具展（楽集館企画展）

第4章 学習成果を活用する仕組みづくり

1 学習成果の発表・評価・活用

【現状と課題】

- 教育基本法が示す生涯学習の理念では、学習した成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならないとされています。
- 意識調査では「あなたは、学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、家庭や職場以外の地域社会（町内会、PTA、スポーツクラブ、サークル活動など）でどのような活動に役立てましたか」について、「活用する機会がなかった」が39.8%、「地域自治の推進に関する活動（町内会・老人クラブ等の活動など）」は15.2%と割合が低いことから、地域や社会へ還元しているケースは少ない傾向にあります。
- 市民が生涯にわたり必要な知識や技術を学び、自己能力を高めるとともに、学んだ成果を生かして活躍できる機会の提供や環境づくりが求められています。また、さまざまな社会環境の変化に対応するため、地域コミュニティの維持・活性化への貢献や社会参加につなげていくための実践的な学習機会の提供や仕組みづくりが必要です。
- 多様な学習によって得られた成果は、仲間同士での発表や個人的な活動にとどまらず、地域社会のさまざまな活動に生かされることが期待されています。発表する機会を充実させることで、市民の意識が高まり、学習をきっかけとした他の関係団体等との交流の場にもつながります。



資料出典 生涯学習に関する意識調査（H30）

【施策の方向】

- 学習成果を評価・活用する環境の整備
 - ・学習成果が適切に評価され、社会で幅広く通用する環境を構築するため、新潟県立生涯学習推進センターが取り組んでいる「いきいき県民カレッジ」を有効活用するとともに、県やその他の関係機関と連携し、評価システムの構築を検討します。
 - ・学習者が自分の学習レベルを確認し、学習成果をさまざまな形で地域に還元することができるよう、公民館活動や地域活動などを通じて活用できる環境の整備を行い、学習者の学ぶ意欲を高めます。

○学習成果発表への支援

- ・個人や各種団体等が学習成果を発表する場や機会を支援します。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
学習成果を評価する仕組みづくり／いきいき県民カレッジの活用など	継続	生涯学習課
学習成果を評価・活用する環境の整備／公民館活動や地域活動への貢献など	充実	公民館
学習成果の発表	継続	生涯学習課・公民館

2 人材の育成・活用

【現状と課題】

- 教育施設・福祉施設、地域の集まりや学習会などでボランティアや講師を探している関係機関・各種団体があります。他方、自己の学習成果である知識や技能を社会に役立てたいと考えている人もいます。これらの情報を集めて、人材の発掘・育成を図り、適切に情報提供ができる体制の整備が求められています。
- 人口減少、少子高齢化に伴い、今後の地域づくりを担う次世代の人材育成や仲間づくりなど、地域社会全体の活性化につながる活動を支援する必要があります。

【施策の方向】

- 人材の育成と資質の向上
 - ・学んだ知識や技術をどのように伝えるか、というコミュニケーション能力や指導技術の向上を目指します。また、次世代の人材が地域づくりに取り組む機運を高め、主体的に活動できる人材育成と、公民館活動の充実を図ります。
- 人材情報の収集とコーディネート
 - ・ボランティアや講師の情報を収集するとともに、関係機関と連携し、人材を有効に活用します。また、講師活用のニーズを把握して、必要な人材をコーディネートします。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
指導者養成研修の開催／スポーツ推進委員研修会、公民館分館役員研修会など	充実	生涯学習課・公民館
人材情報の収集とコーディネート／さまざまな機関と連携した人材の活用、人材活用のニーズの把握	継続	生涯学習課・公民館

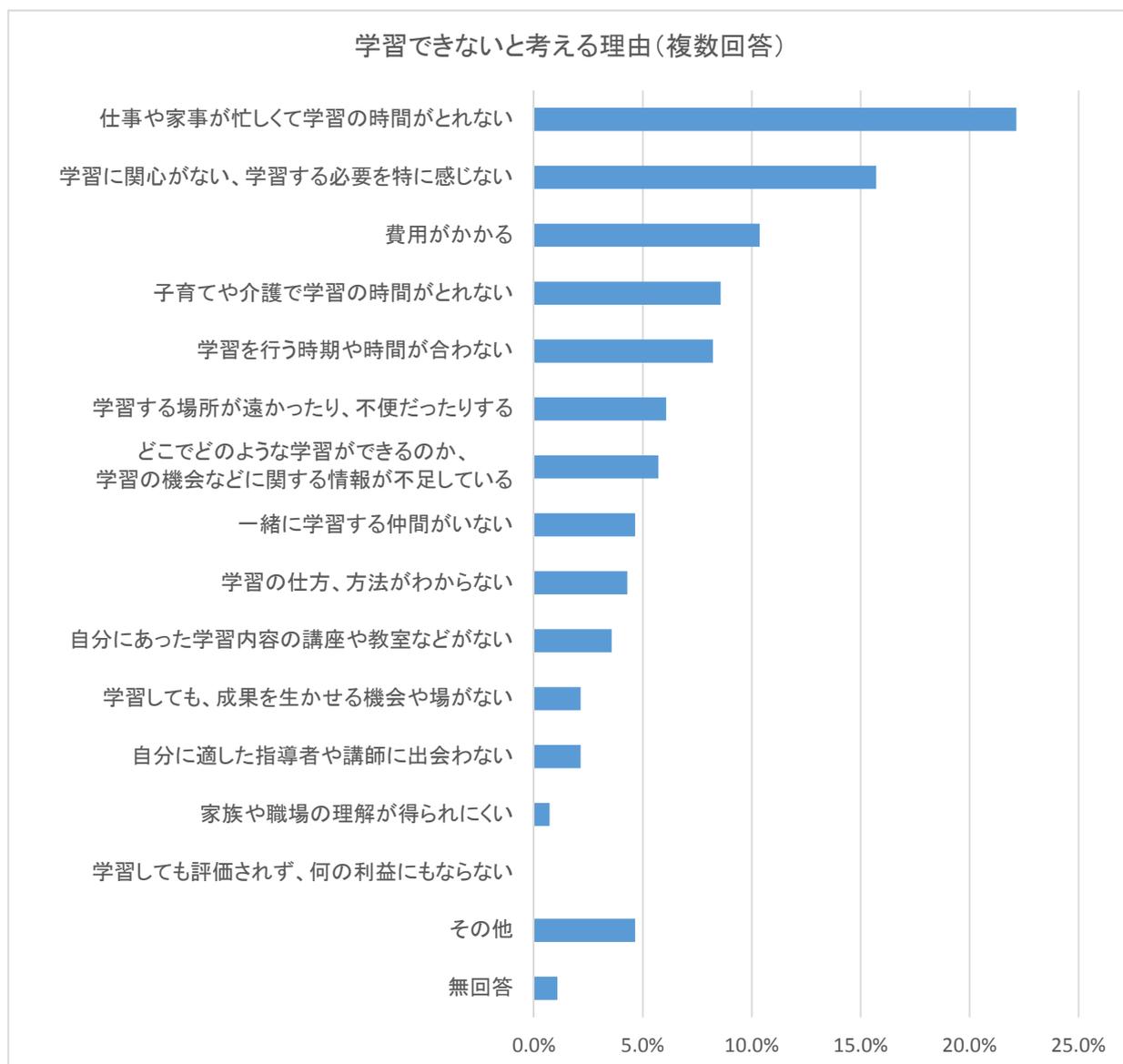
第5章 市民の学びを支える環境づくり

1 総合的な生涯学習情報の提供

【現状と課題】

○市や関係機関、各種団体では、市民向けにさまざまな講座や講演会などの学習機会を提供しています。意識調査の結果では、多くの市民が学習活動に関する情報を広報おぢや、インターネット、新聞・雑誌のほか、ラジオからの取得も浸透してきています。

○多くの人が学びたいと考えていますが、日常生活の忙しさや、学習の必要性、学習費用など、さまざまな要因で学びに結びつかない現状があります。「学びたい」と感じたことが、「学ぶ」活動につながるきっかけとなるように、学習ニーズを的確に把握し、学習情報をわかりやすく提供する必要があります。



資料出典 生涯学習に関する意識調査 (H30)

【施策の方向】

○学習情報提供の充実

- ・市民は、生涯学習に関する多くの情報を、多岐にわたる手段で入手していることから、情報発信手段を拡充し、より効果的な情報提供に努めます。また、関係機関・各種団体が行う学習機会についても広く情報提供を行います。
- ・学習についての関心と興味を喚起するため、講座・教室の進行状況や実施結果の情報についてもホームページなどを活用して公表に努めます。
- ・学習の継続や仲間づくりのため、関係するサークル・団体との連携を深め、参加者をつなぐ情報の提供を進めます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
関係機関と連携した幅広い情報提供／いきいき県民カレッジ、ラ・ラ・ネットの活用など	充実	生涯学習課
関係機関、各種団体と連携した一元的な生涯学習情報の提供／生涯学習ガイドの発行など	充実	生涯学習課
ポスター、チラシの有効的な活用、市民向け情報掲示場所の提供	充実	生涯学習課
広報おちや、ホームページでの掲載内容の充実／学習サークルや団体の紹介など	継続	企画政策課 生涯学習課
公民館など、地域の活動情報の提供と共有化	充実	生涯学習課・公民館

2 生涯学習に関する相談体制の確立

【現状と課題】

- 市民が学びたい意欲があっても、適切な講座を探すことができない、学習方法がわからない、適任の指導者が見つからないという場合があります。こういった相談に対して、適切に学習情報を提案・助言できるよう、学習相談に応じられる体制を整える必要があります。
- 図書館では、さまざまな調べごとへの援助（レファレンスサービス）を提供していますが、相談内容が多岐にわたるため、職員の対応能力の向上を図る必要があります。

【施策の方向】

○相談体制の充実

- ・「広報おちや」や市のホームページなどを活用して、市民のさまざまな相談に適切に対応するため、窓口の周知を図り学習相談をより充実させる体制を確立します。
- ・県立図書館主催の研修会の参加や職員間での内部研修会を実施し、レファレンスサービスの職員対応能力向上に努めます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
生涯学習の相談窓口の充実	充実	生涯学習課
図書館におけるレファレンスサービス対応の強化	充実	図書館
生涯学習に関する職員向け研修会への参加、情報の共有	充実	生涯学習課

3 生涯学習関係団体の相互連携

【現状と課題】

- 生涯学習に関するさまざまな講座や講演会は、市や関係機関・各種団体がそれぞれの目的達成のために開催しています。このため、サービスを受ける市民に情報提供を行い、より多くの市民に学習活動への参加を促すとともに、関係機関・各種団体と連携を図り、それぞれが行う生涯学習情報を一元的に、わかりやすい形で市民に提供する必要があります。
- 公民館では各種講座・教室を開催し、既存の社会教育関係団体・サークルへの紹介や受講者同士の新たなサークルへの結成を促進しています。

【施策の方向】

- 学習情報の共有と連携の強化
 - ・関係機関・各種団体などさまざまな団体との情報交換を積極的に行い、それぞれの機関が果たしている役割を十分に発揮できる環境を整備します。
 - ・市内に限らず、市外の高等教育機関や各種学校、県や他市町村の実施する学習機会などとの連携を図ります。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
関係機関・各種団体との情報連絡体制の強化、一元化された情報の提供	充実	企画政策課 生涯学習課
関係機関・各種団体と連携した多彩な学習機会の提供	継続	生涯学習課・公民館

4 多くの人が学習に参加できる環境の充実

【現状と課題】

- 子育て中の人や障がいのある人が、気軽にスポーツや文化活動を楽しみ、多くの人と出会い、学習する機会が必要です。
- イベントや講演会などでは、保育ルームの設置や、手話通訳・要約筆記の奉仕員を配置しています。

【施策の方向】

- 学習参加しやすい環境の充実
 - ・子育て中の人や障がいのある人が、気軽に学習に参加できるよう、引き続き学習環境を整備します。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
子育て世代の参加を促すための環境整備／乳幼児一時預かり、保育サポーター派遣、ファミリー・サポート・センターの活用促進など	充実	子育て支援センター 社会福祉課 生涯学習課
障がいのある人の参加を促す環境整備／手話奉仕員、要約筆記奉仕員の活用など	充実	社会福祉協議会 生涯学習課

5 生涯学習施設の整備・拡充

【現状と課題】

- 市内には、生涯学習関連施設として図書館、市民会館、市民学習センター「楽集館」、総合体育館、白山運動公園などがあります。それぞれがその役割を果たしていますが、施設の老朽化が進み、改修や耐震補強が必要な施設があります。また、市民の多様化するニーズに応えきれない施設もあるため、施設の管理・運営のあり方を見直し、効果的な施設運営を図る必要があります。
- 賑わい・交流・憩いの創出を目指すため、図書館を核とした複合施設の整備を進めています。また、郷土資料（文化財等含む）を展示、保管する施設を複合施設内に整備する予定です。

【施策の方向】

- 社会教育施設などの整備・活用
 - ・市民の多様な学習ニーズに応えるため、社会教育施設やスポーツ施設など生涯学習関連施設において、安全かつ快適に利用できるよう、公共施設等総合管理計画に従って施設の整備を進めます。
 - ・長岡地域定住自立圏内の利用可能施設について、有効活用を図ります。

○図書館を核とした複合施設整備

- ・図書館及び（仮称）郷土資料館の整備にあたり、歴史的価値のある郷土資料などの収集・保存に努め、多くの市民に公開できるように努めます。

【主な取組】

事業概要／事業名	実施区分	担当課等
生涯学習関連施設の整備	継続	生涯学習課
図書館・（仮称）郷土資料館の複合施設整備	新規	生涯学習課 建設課
長岡地域定住自立圏内の利用可能施設の周知	継続	企画政策課

第6章 計画の推進に向けて

若者から高齢者まで多様な世代が活躍できる生涯学習社会を推進するためには、より多くの市民に、生涯にわたって学ぶきっかけを提供できるよう、環境整備や情報提供を行わなければなりません。そのためには、行政は基より、教育機関や各種団体などが連携し、役割分担を行いながら、事業を進めていくことが必要です。

1 計画推進のための役割と期待

(1) 市民への期待

生涯学習に取り組む主体は市民であり、市民一人ひとりが自発的意思に基づいて学習することが重要です。また、個人が単独で学習するだけでなく、サークル活動や団体活動の中で学習を広げ、深めるとともに学習成果を地域課題の解決に向けた活動につなげていくことが望まれます。

(2) 市・教育委員会の役割

本計画に示した施策は、学校、家庭、地域、関係機関や各種団体などと緊密に連携し、調整を図りながら協働して事業を進めていきます。

また、生涯学習に関する情報の宝庫である図書館と連携して生涯学習の推進に努めます。

(3) 公民館の役割

公民館は地域の学習の拠点として、その機能を発揮することが求められています。社会教育の実施主体として人材の育成と活用を図りながら、講座や講習会を実施するとともに、必要に応じて学校、各種団体などとともに多様な学習機会の提供を行っていきます。

(4) 教育機関などへの期待

生涯学習では、人生の早い段階から学習への親しみと地域に対する興味を育んでいくことが大切です。認定こども園や小・中学校、高等学校などの教育機関においても家庭や地域などと連携して、これらの学習に取り組むことが期待されます。

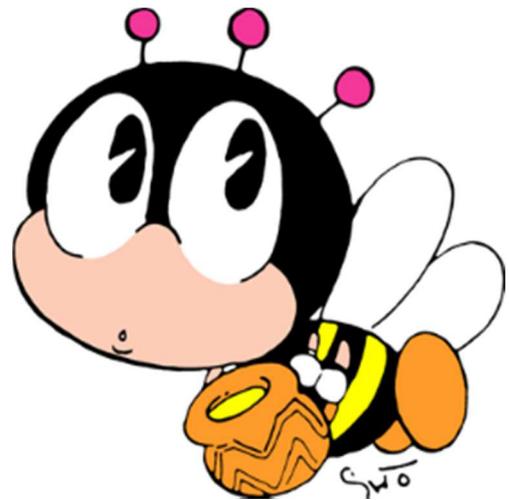
(5) NPOなど民間団体や産業界への期待

市内には、学習機会を提供し、地域の課題解決に取り組むNPO、民間団体・協力企業等も多数あります。これらの団体や企業等には、今後も積極的な情報発信と協力・連携を期待するとともに、市民協働によるまちづくりを推進していきます。

2 計画の進行管理

本計画を効果的に推進するためには、施策や事業の進捗状況を把握し、検証しながら見直しを行っていくことが重要です。このため、毎年度、施策や事業の進捗状況を、担当課や関係機関などと調整し、とりまとめます。

その結果は、「小千谷市社会教育委員会」に報告し、助言、指導を受けながら計画を推進します。



生涯学習のマスコット「マナビィ」

資料編

1	生涯学習に関する意識調査 集計結果報告書	32
2	小千谷市社会教育委員名簿	61
3	第2次小千谷市生涯学習推進計画策定経過	62

生涯学習に関する意識調査 集計結果報告書

1. 調査の目的

第2次小千谷市生涯学習推進計画策定のため、生涯学習についての市民の意識を探る。

2. 調査方法

- ・調査地域 小千谷市全域
- ・対象者人数 市内在住の18歳以上の男女1,000人
- ・抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- ・収集方法 アンケートを郵送配布・回収（返信用封筒同封）
- ・調査期間 平成30年6月28日～7月18日

3. 回答結果

- ・回答数 496人（回収率49.6%）
- ・男女比 男206人 女270人 無回答20人
- ・年齢層
18～29歳代：24人
30～39歳代：44人
40～49歳代：92人
50～59歳代：117人
60～69歳代：156人
70歳以上：61人
無回答：2人

4. 報告書の見方

- （1）回答の比率は小数点以下第2位を四捨五入していますので、回答者比率の合計が100%にならない場合があります。
- （2）クロス集計の結果、年齢区分、性別の未回答者がいるため、集計結果の合計値が合わない場合があります。
- （3）本文中の前回調査とは、平成25年4月～5月に小千谷市教育委員会が行った、「小千谷市民の学びについての意識調査」をいいます。なお前回調査の「20～29歳代」は、今回調査の「18～29歳代」と比較しています。

問1 あなた自身のことについてお聞きします。当てはまる項目にチェックをつけてください。

(1) あなたの性別

女性の回収率は半数を超えています。前回調査の回収率同様に、男性は低い回収率となっています。

		配布数	回答数	構成比	男女別回収
(1)	男	500	206	41.5%	41.2%
(2)	女	500	270	54.4%	54.0%
	無回答		20	4.0%	
	計	1,000	496	100.0%	49.6%

(2) あなたの年齢

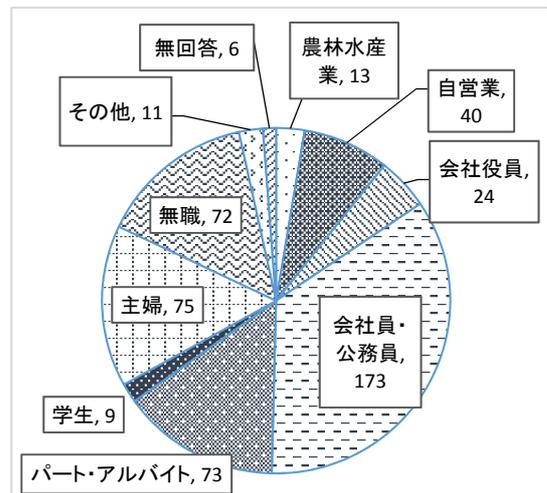
年代別回収率では50歳代以下までは半数を下回り、60歳代以上では6割以上の回収率になっています。29歳以下は特に低い回収率となっています。

		配布数	回答数	構成比	年代別回収
(1)	18～29歳	100	24	4.8%	24.0%
(2)	30～39歳	100	44	8.9%	44.0%
(3)	40～49歳	200	92	18.5%	46.0%
(4)	50～59歳	250	117	23.6%	46.8%
(5)	60～69歳	250	156	31.5%	62.4%
(6)	70歳以上	100	61	12.3%	61.0%
	無回答		2	0.4%	
	計	1,000	496	100.0%	

(3) あなたのご職業

回答者の職業については「会社員・公務員・団体職員」が34.9%と最も多く、次いで「主婦」15.1%、「パート・アルバイト」14.7%となっています。

		回答	構成比
(1)	農林水産業	13	2.6%
(2)	自営業	40	8.1%
(3)	会社役員・団体役員	24	4.8%
(4)	会社員・公務員・団体職員	173	34.9%
(5)	パート・アルバイト	73	14.7%
(6)	学生	9	1.8%
(7)	主婦	75	15.1%
(8)	無職	72	14.5%
(9)	その他	11	2.2%
	無回答	6	1.2%
	計	496	100.0%



(4) 上記(3)でお勤めしている方にお聞きします。その勤務地はどこですか。

前回調査では自宅 11.4%、小千谷市内 57.8%、長岡市 21.3%、長岡市以外の県内 6.9%、県外 1.5%となっており、小千谷市内で勤務している人の割合が上がっています。

		今回調査		前回調査	
		回答数(人)	構成比	回答数	構成比
(1)	自宅	19	5.9%	38	11.4%
(2)	小千谷市内	206	63.8%	193	57.8%
(3)	長岡市	56	17.3%	71	21.3%
(4)	長岡市以外の県	23	7.1%	23	6.9%
(5)	県外	1	0.3%	5	1.5%
	無回答	18	5.6%	4	1.2%
	計	323	100.0%	334	100.0%

(5) あなたはどの中学校区にお住まいですか。

		回答数	構成比
(1)	小千谷中学校区	231	46.6%
(2)	東小千谷中学校区	93	18.8%
(3)	千田中学校区	62	12.5%
(4)	南中学校区	39	7.9%
(5)	片貝中学校区	55	11.1%
	無回答	16	3.2%
	計	496	100.0%

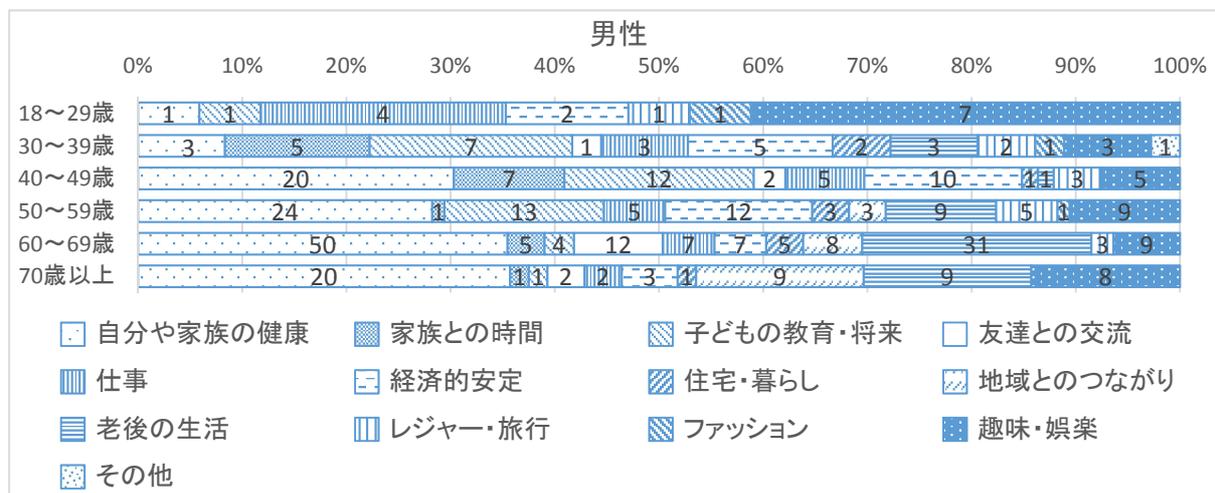
(6) 今、あなたが関心を持っていることは何ですか。次の中から2つまでチェックをつけてください。

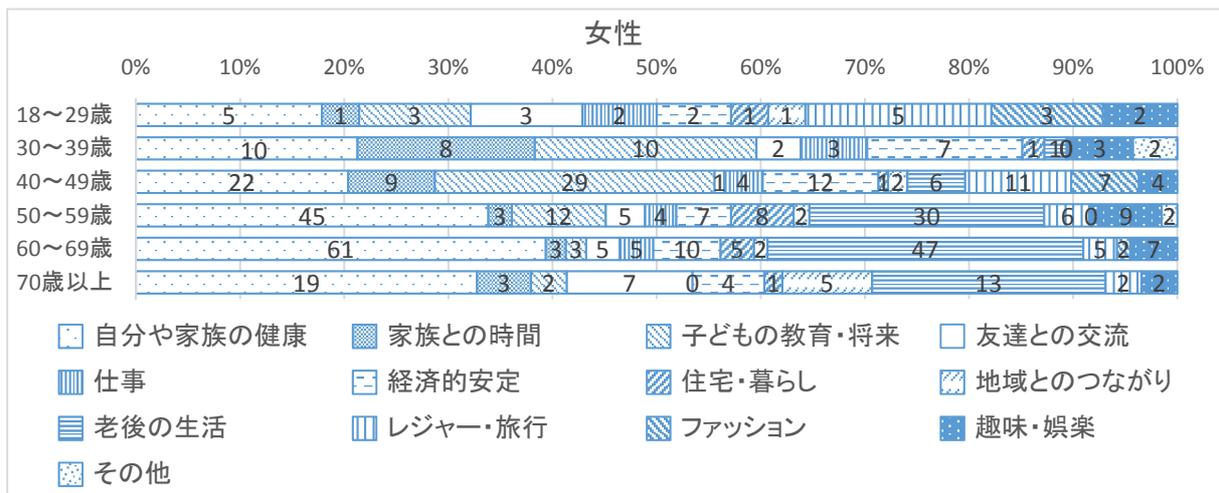
各年代においても「自分や家族の健康」に高い関心を持ち、前回調査とほぼ同様の結果となりました。その他 18～29 歳代では「趣味・娯楽」の他に「レジャー・旅行」や「仕事」に関心を持ち、30 歳代では「子どもの教育・将来」、「家族との時間」など家族との事柄に関心が移ります。40 歳代以降から「自分や家族の健康」に最も関心が高まり、健康寿命を意識する傾向がうかがえます。また 40 歳代では「子供の教育・将来」についても関心が高くなっています。

「自分や家族の健康」、「子どもの教育・将来」、「老後の生活」は女性の関心が高い結果となっています。

また、前回調査では「仕事」への関心は 60 歳代以上を除くと全ての年代で 10%以上でしたが、今回は 18～29 歳代を除き全ての年代で 10%未満となり、半数近くに減少しました。また男女差は見られませんでした。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自分や家族の健康	285	29.5%	6	13.3%	13	15.1%	43	23.8%	69	30.5%	114	37.3%	40	33.3%	0	0.0%
家族との時間	48	5.0%	1	2.2%	14	16.3%	16	8.8%	5	2.2%	8	2.6%	4	3.3%	0	0.0%
子どもの教育・将来	100	10.4%	4	8.9%	17	19.8%	42	23.2%	27	11.9%	7	2.3%	3	2.5%	0	0.0%
友達との交流	43	4.5%	3	6.7%	3	3.5%	3	1.7%	6	2.7%	18	5.9%	10	8.3%	0	0.0%
仕事	46	4.8%	6	13.3%	6	7.0%	9	5.0%	11	4.9%	12	3.9%	2	1.7%	0	0.0%
経済的安定	89	9.2%	4	8.9%	12	14.0%	25	13.8%	20	8.8%	21	6.9%	7	5.8%	0	0.0%
住宅・暮らし	30	3.1%	1	2.2%	3	3.5%	2	1.1%	11	4.9%	10	3.3%	3	2.5%	0	0.0%
地域とのつながり	32	3.3%	1	2.2%	0	0.0%	2	1.1%	5	2.2%	10	3.3%	14	11.7%	0	0.0%
老後の生活	154	15.9%	0	0.0%	4	4.7%	8	4.4%	39	17.3%	80	26.1%	23	19.2%	0	0.0%
レジャー・旅行	46	4.8%	6	13.3%	4	4.7%	14	7.7%	12	5.3%	8	2.6%	2	1.7%	0	0.0%
ファッション	15	1.6%	4	8.9%	1	1.2%	7	3.9%	1	0.4%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
趣味・娯楽	70	7.2%	9	20.0%	6	7.0%	9	5.0%	18	8.0%	16	5.2%	12	10.0%	0	0.0%
その他	5	0.5%	0	0.0%	3	3.5%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
合計	966	100.0%	45	100.0%	86	100.0%	181	100.0%	226	100.0%	306	100.0%	120	100.0%	2	100.0%



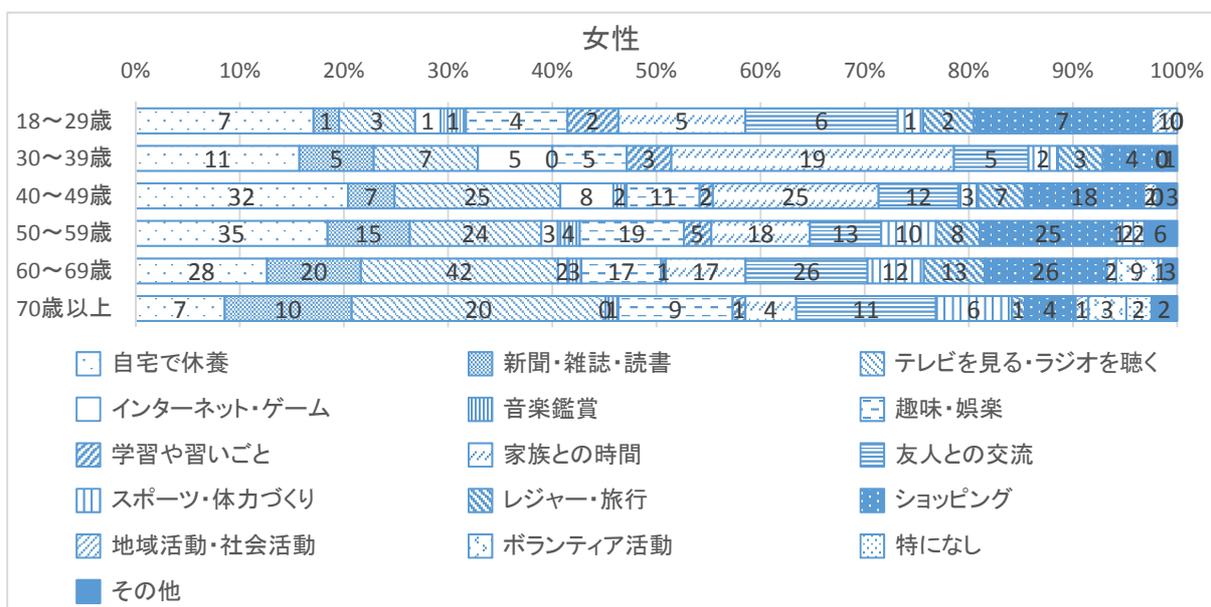
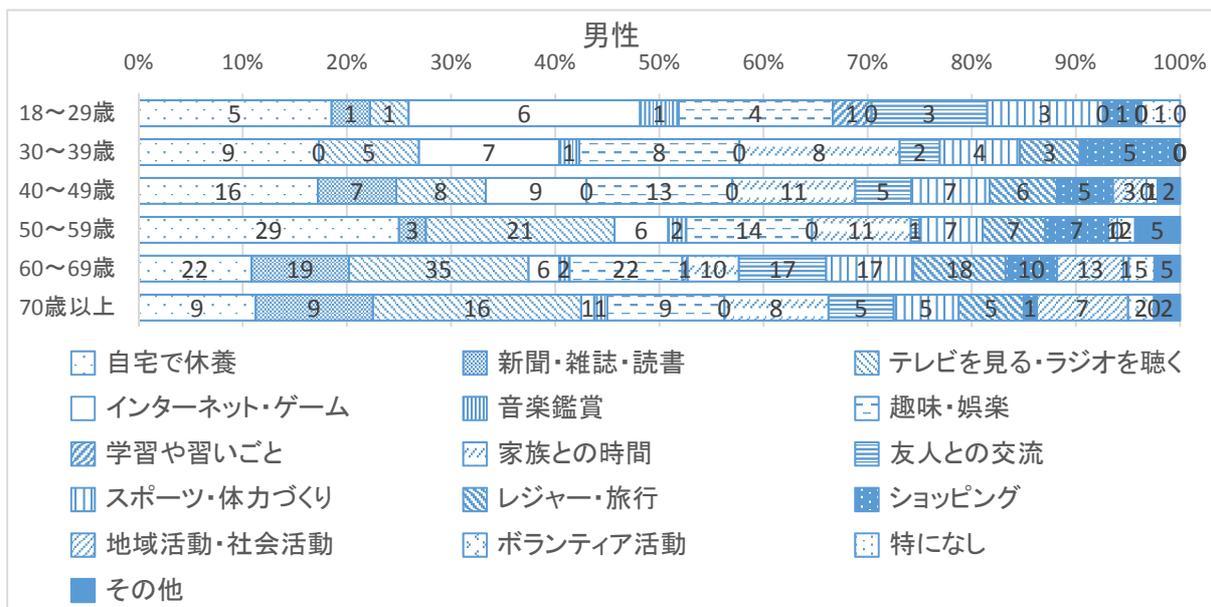


(7) あなたは、余暇をどのようにお過ごしですか。次の中から3つまでチェックをつけてください。

全体では「自宅で休養」、「テレビを見る・ラジオを聴く」の割合が高い結果となりました。18~29歳代の特徴では「友人との交流」、30歳代~40歳代では「家族との時間」として余暇を過ごし、50歳代以降では、年齢とともに「テレビを見る・ラジオを聴く」の割合が高くなっています。

「趣味・娯楽」をして過ごす人は全年代10%前後を保っており、年代による差はなく一定数の関心があります。また、「学習や習いごと」(1.2%)、「地域活動・社会活動」(2.2%)、「ボランティア活動」(1.2%)は前回と比較して大きな変化が見られませんでした。

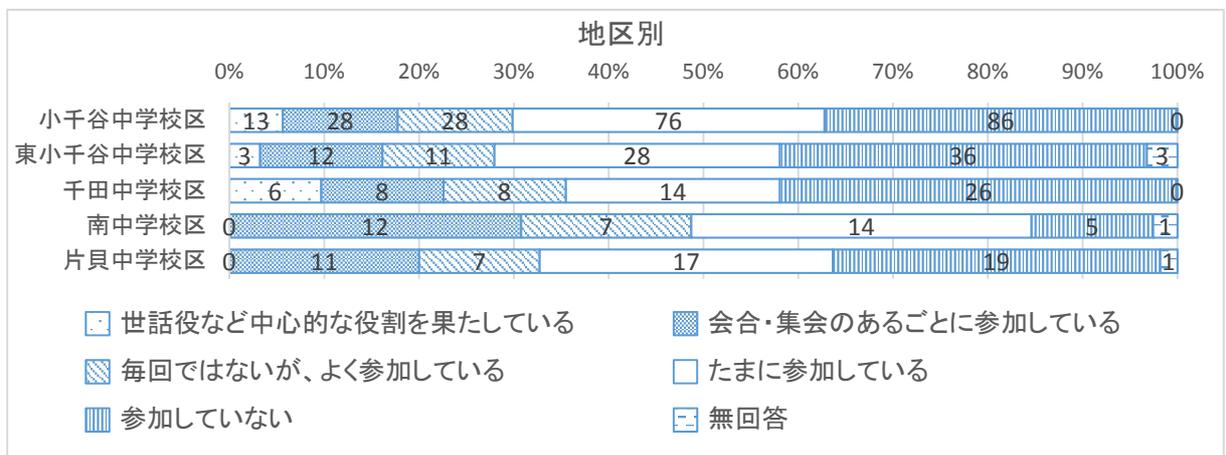
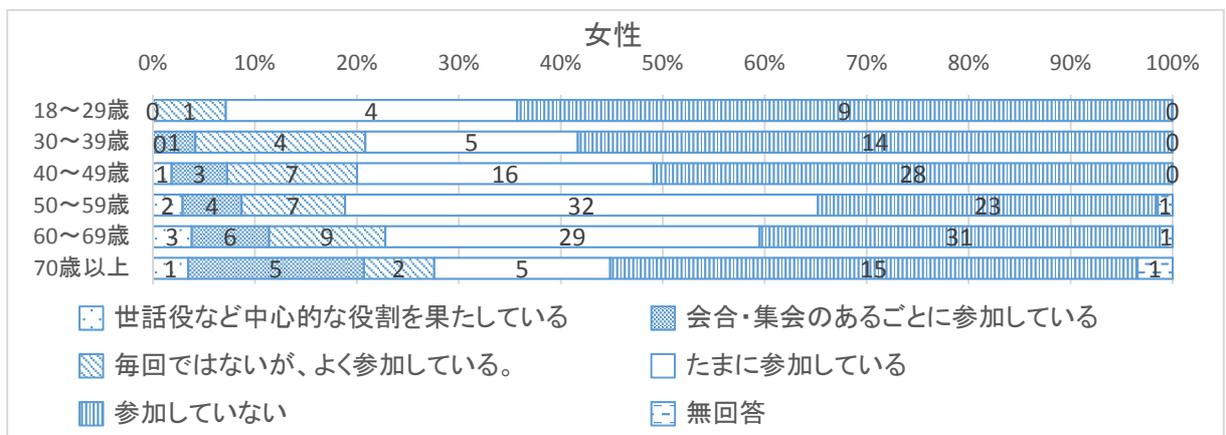
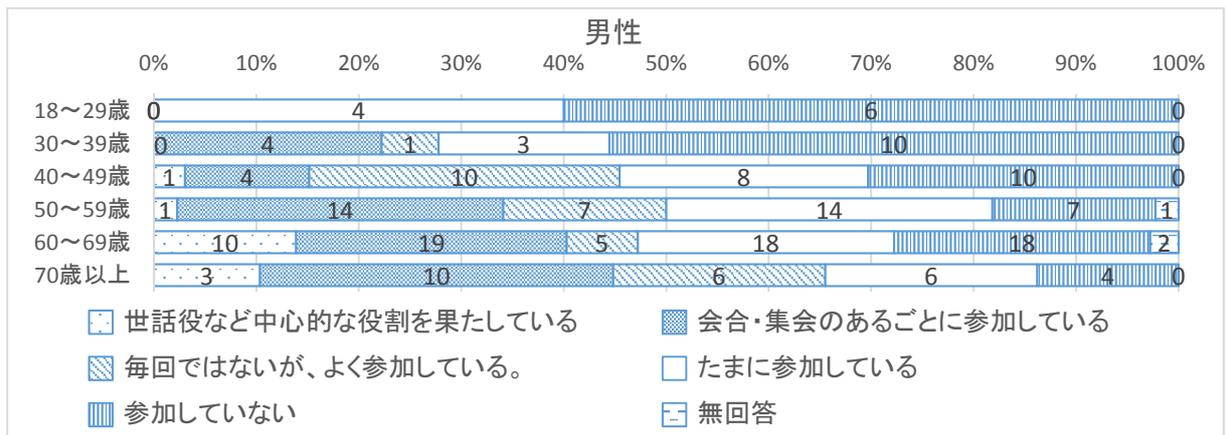
選択項目	総計		18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自宅で休養	220	15.9%	12	17.6%	21	16.7%	51	19.7%	66	20.8%	52	11.8%	18	10.5%	0	0.0%
新聞・雑誌・読書	103	7.4%	2	2.9%	5	4.0%	15	5.8%	18	5.7%	42	9.5%	21	12.3%	0	0.0%
テレビを見る・ラジオを聴く	217	15.7%	4	5.9%	12	9.5%	34	13.1%	48	15.1%	81	18.4%	38	22.2%	0	0.0%
インターネット・ゲーム	57	4.1%	7	10.3%	12	9.5%	18	6.9%	11	3.5%	8	1.8%	1	0.6%	0	0.0%
音楽鑑賞	18	1.3%	2	2.9%	1	0.8%	2	0.8%	6	1.9%	5	1.1%	2	1.2%	0	0.0%
趣味・娯楽	142	10.3%	8	11.8%	15	11.9%	24	9.3%	35	11.0%	40	9.1%	20	11.7%	0	0.0%
学習や習いごと	17	1.2%	3	4.4%	3	2.4%	2	0.8%	6	1.9%	2	0.5%	1	0.6%	0	0.0%
家族との時間	141	10.2%	5	7.4%	28	22.2%	37	14.3%	30	9.4%	29	6.6%	12	7.0%	0	0.0%
友人との交流	108	7.8%	9	13.2%	7	5.6%	17	6.6%	15	4.7%	43	9.8%	17	9.9%	0	0.0%
スポーツ・体力づくり	78	5.6%	4	5.9%	6	4.8%	10	3.9%	17	5.3%	30	6.8%	11	6.4%	0	0.0%
レジャー・旅行	74	5.3%	2	2.9%	6	4.8%	13	5.0%	15	4.7%	32	7.3%	6	3.5%	0	0.0%
ショッピング	115	8.3%	8	11.8%	9	7.1%	24	9.3%	32	10.1%	37	8.4%	5	2.9%	0	0.0%
地域活動・社会活動	31	2.2%	1	1.5%	0	0.0%	5	1.9%	2	0.6%	15	3.4%	8	4.7%	0	0.0%
ボランティア活動	17	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	10	2.3%	5	2.9%	0	0.0%
特にない	14	1.0%	1	1.5%	0	0.0%	1	0.4%	4	1.3%	6	1.4%	2	1.2%	0	0.0%
その他	29	2.1%	0	0.0%	1	0.8%	5	1.9%	11	3.5%	8	1.8%	4	2.3%	0	0.0%
無回答	3	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
合計	1,384	100.0%	68	100.0%	126	100.0%	259	100.0%	318	100.0%	440	100.0%	171	100.0%	2	100.0%



(8) 町内会・老人クラブ・町内青(成)年会など各種地域団体の活動がありますが、あなたはどの程度参加していますか。

前回調査と同様に「参加していない」が36.7%と最も高い結果となっていますが、18～29歳代で17ポイント、30歳代で5ポイント前回調査より減少し、若い世代の参加の増加傾向が見られます。男女別では、男性の参加率が高く、「積極的に参加して、世話役など中心的な役割を果たしている」では60歳代の男性の割合が高くなっています。また、50歳代の参加率は男女ともに高く、地域活動の中心的世代とみられます。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
積極的に参加して、世話役など中心的な役割を果たしている	22	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.2%	3	2.6%	13	8.3%	4	6.6%	0	0.0%
会合・集会のあるごとに参加している	72	14.5%	0	0.0%	5	11.4%	7	7.6%	18	15.4%	27	17.3%	15	24.6%	0	0.0%
毎回ではないが、よく参加している。	61	12.3%	1	4.2%	5	11.4%	18	19.6%	14	12.0%	15	9.6%	8	13.1%	0	0.0%
たまに参加している	151	30.4%	8	33.3%	8	18.2%	26	28.3%	48	41.0%	48	30.8%	12	19.7%	1	50.0%
参加していない	182	36.7%	15	62.5%	26	59.1%	39	42.4%	32	27.4%	49	31.4%	21	34.4%	0	0.0%
無回答	8	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	4	2.6%	1	1.6%	1	50.0%
合計	496	100.0%	24	100.0%	44	100.0%	92	100.0%	117	100.0%	156	100.0%	61	100.0%	2	100.0%

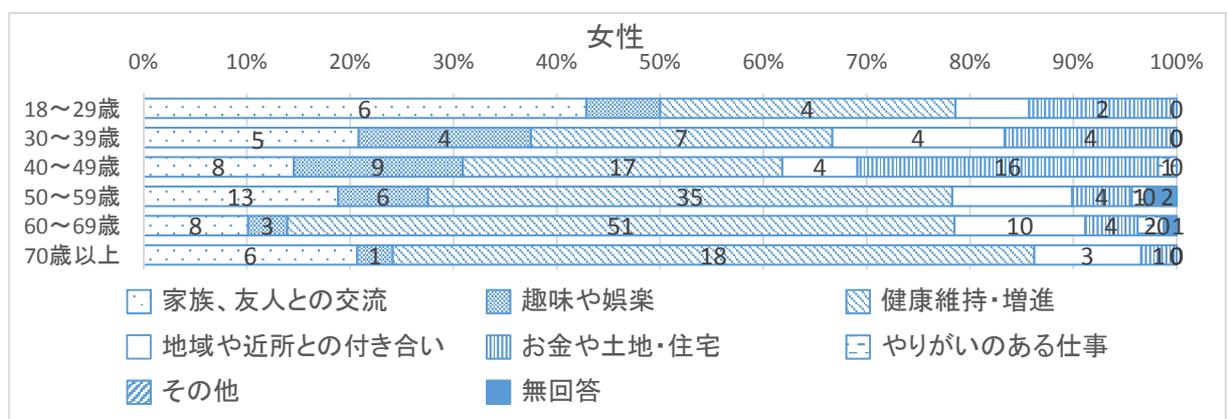
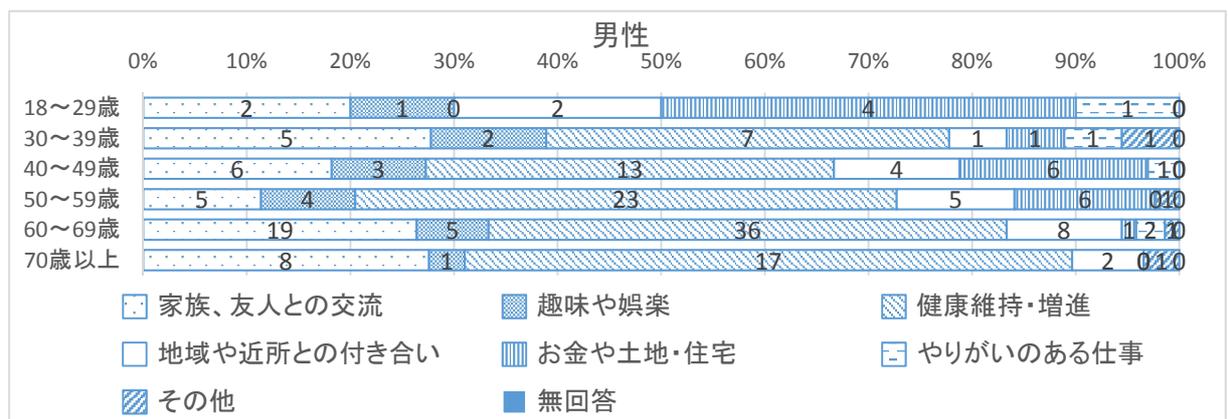


(9) これからの老後の生活で最も大切なことは何だと思えますか。次の中から1つチェックをつけてください。

18～29歳代を除く全年代が「健康維持・増進」をこれからの老後の生活で最も大切なことだと回答し、全体で前回調査より5ポイント高くなっています。

年代別では18～29歳代及び40歳代では「お金や土地・住宅」への関心が高いことがわかります。

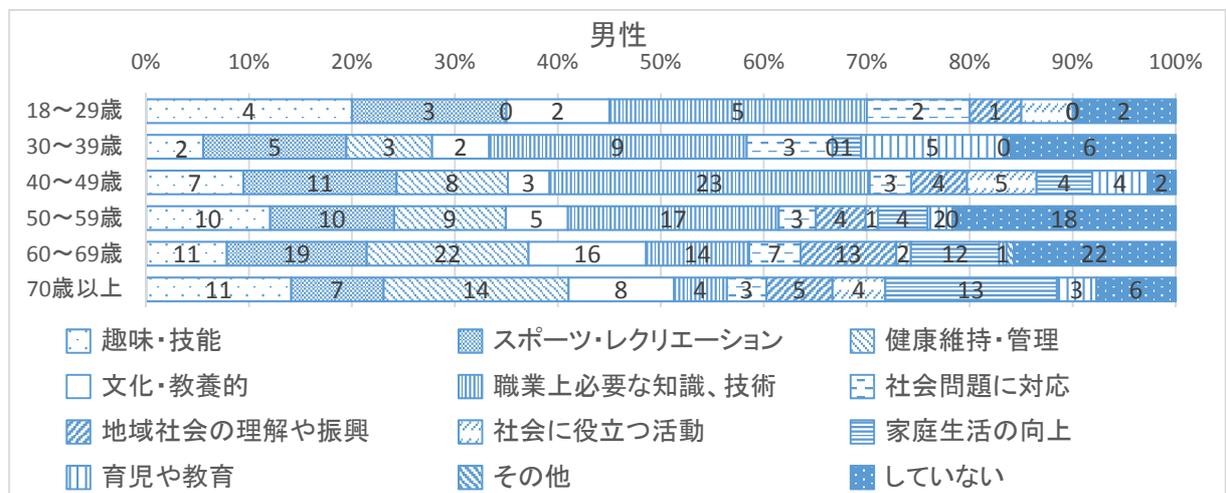
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家族、友人との交流	95	19.2%	8	33.3%	11	25.0%	14	15.2%	20	17.1%	28	17.9%	14	23.0%	0	0.0%
趣味や娯楽	42	8.5%	2	8.3%	6	13.6%	12	13.0%	10	8.5%	8	5.1%	3	4.9%	1	50.0%
健康維持・増進	235	47.4%	4	16.7%	15	34.1%	30	32.6%	59	50.4%	90	57.7%	37	60.7%	0	0.0%
地域や近所との付き合い	55	11.1%	3	12.5%	5	11.4%	10	10.9%	13	11.1%	19	12.2%	5	8.2%	0	0.0%
お金や土地・住宅	52	10.5%	6	25.0%	5	11.4%	24	26.1%	11	9.4%	5	3.2%	1	1.6%	0	0.0%
やりがいのある仕事	9	1.8%	1	4.2%	1	2.3%	2	2.2%	1	0.9%	4	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他	4	0.8%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.6%	1	1.6%	0	0.0%
無回答	4	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	1	0.6%	0	0.0%	1	50.0%
合計	496	100.0%	24	100.0%	44	100.0%	92	100.0%	117	100.0%	156	100.0%	61	100.0%	2	100.0%

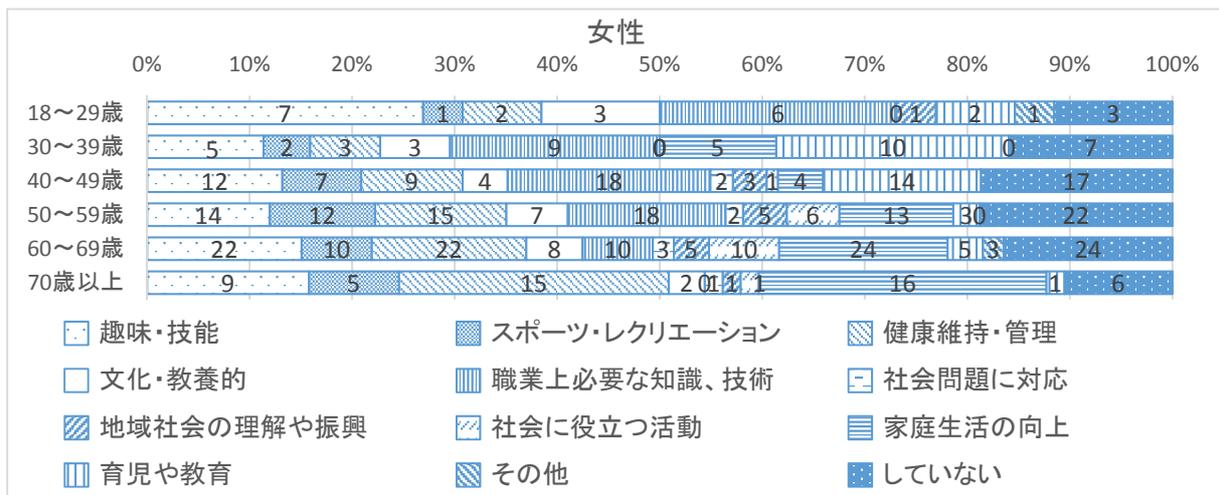


問2 あなたが、過去1年間に学習した内容は何ですか。当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

18～29歳代から50歳代までの年代では「職業上必要な知識」を学習する割合が高くなっています。30～39歳代では「育児や教育に関するもの」の学習に関心が高く、女性に多い傾向が見られます。40歳代以上では「趣味やスポーツ、健康維持」など個人的な学習の割合が、60歳代以上では、「健康維持や家庭生活の向上」の割合がそれぞれ高くなっています。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
趣味を楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道、パソコンなど）	120	12.7%	11	23.9%	7	8.0%	21	12.1%	26	12.7%	34	11.6%	21	15.1%	0	0.0%
スポーツ・レクリエーションなど（球技、ダンス、ハイキングなど）	96	10.1%	4	8.7%	8	9.1%	19	11.0%	22	10.7%	29	9.9%	13	9.4%	1	25.0%
健康の維持や管理に関するもの（健康法、ウォーキング、看護や介護法など）	127	13.4%	2	4.3%	7	8.0%	18	10.4%	24	11.7%	46	15.7%	30	21.6%	0	0.0%
文化・教養的なもの（歴史、文学、演劇、文芸、語学、パソコン操作など）	67	7.1%	5	10.9%	7	8.0%	8	4.6%	13	6.3%	24	8.2%	10	7.2%	0	0.0%
職業上必要な知識、技術などに関するもの（仕事に関する知識・技術、仕事上のパソコン操作など）	137	14.5%	11	23.9%	20	22.7%	42	24.3%	35	17.1%	25	8.5%	4	2.9%	0	0.0%
社会問題に関するもの（経済、教育、人権、男女共同参画など）	29	3.1%	2	4.3%	3	3.4%	5	2.9%	5	2.4%	10	3.4%	4	2.9%	0	0.0%
地域社会の理解や振興に関するもの（まちづくり、伝統芸能、自然環境、人間関係など）	42	4.4%	2	4.3%	0	0.0%	7	4.0%	9	4.4%	18	6.1%	6	4.3%	0	0.0%
社会に役立つ活動に参加するための学習（指導者としての研修、ボランティア活動など）	31	3.3%	1	2.2%	0	0.0%	6	3.5%	7	3.4%	12	4.1%	5	3.6%	0	0.0%
家庭生活の向上に関するもの（衣食住など日常生活に関する知識や技術、消費生活、老後の過ごし方、家族関係など）	99	10.4%	0	0.0%	8	9.1%	8	4.6%	17	8.3%	36	12.3%	29	20.9%	1	25.0%
育児や教育に関するもの（育児、PTA活動、学校ボランティアなど）	52	5.5%	2	4.3%	15	17.0%	19	11.0%	5	2.4%	6	2.0%	4	2.9%	1	25.0%
その他	6	0.6%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	4	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
していない	141	14.9%	5	10.9%	13	14.8%	20	11.6%	41	20.0%	49	16.7%	13	9.4%	0	0.0%
無回答	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%
合計	948	100.0%	46	100.0%	88	100.0%	173	100.0%	205	100.0%	293	100.0%	139	100.0%	4	100.0%

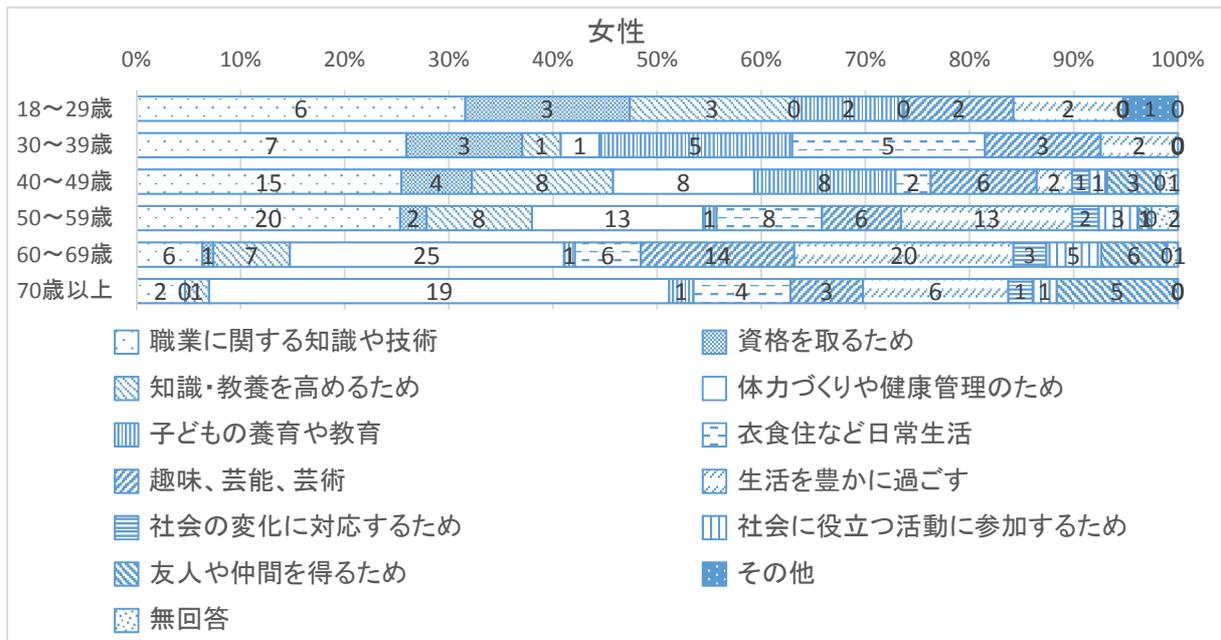
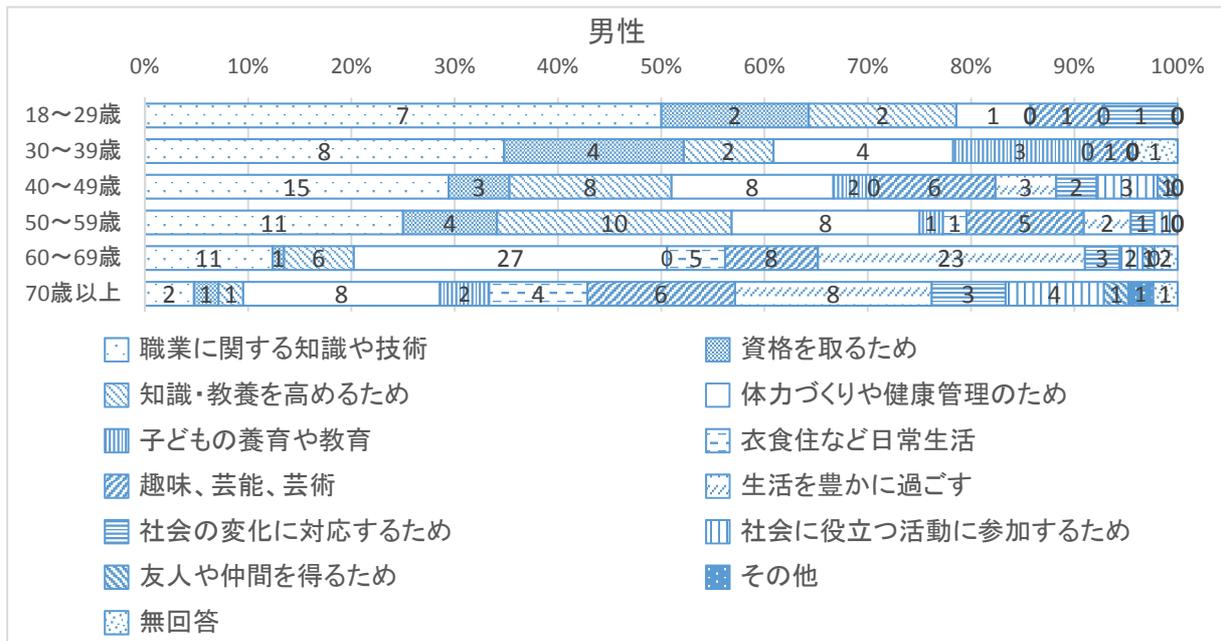




問3 あなたが学習を行った目的や動機は何ですか。当てはまる項目から2つまでチェックをつけてください。

18～29歳代から50歳代までの年代では「職業に関する知識や技術を高めるため、職業上（就職・転職）必要なため」が最も高く、特に若い年代では「資格を得るため」「知識・教養を高めるため」など目的意識が高く必要に応じて学習していることがわかります。また、60歳代以上では「体力づくりや健康管理のため」の回答が多く、年代が上がるごとに健康への関心の強さがうかがえます。

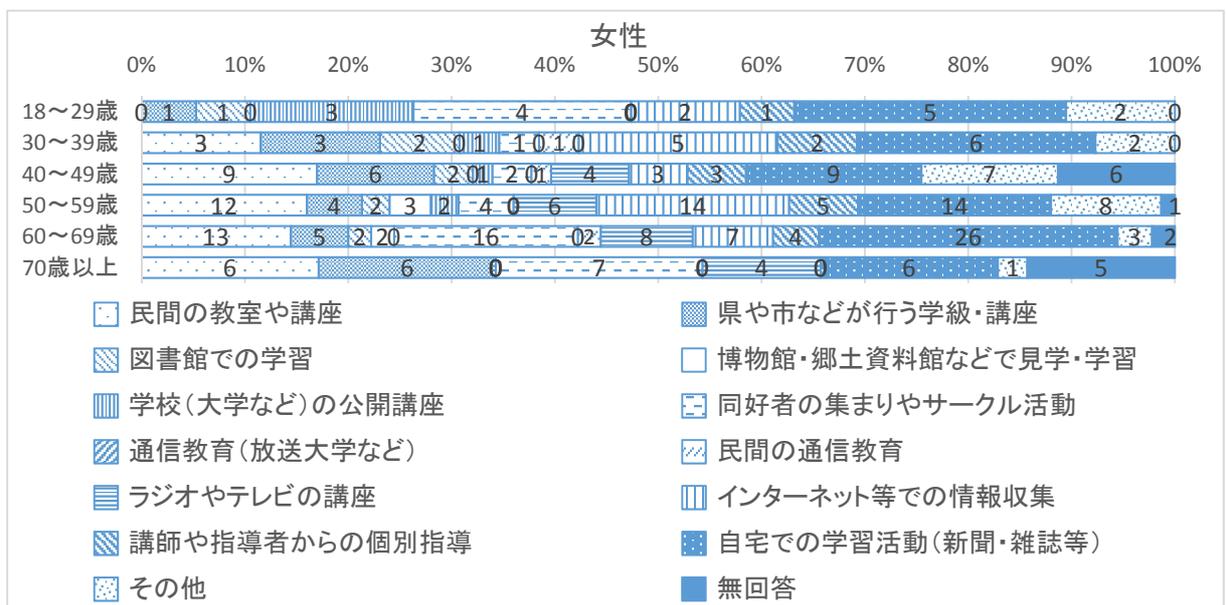
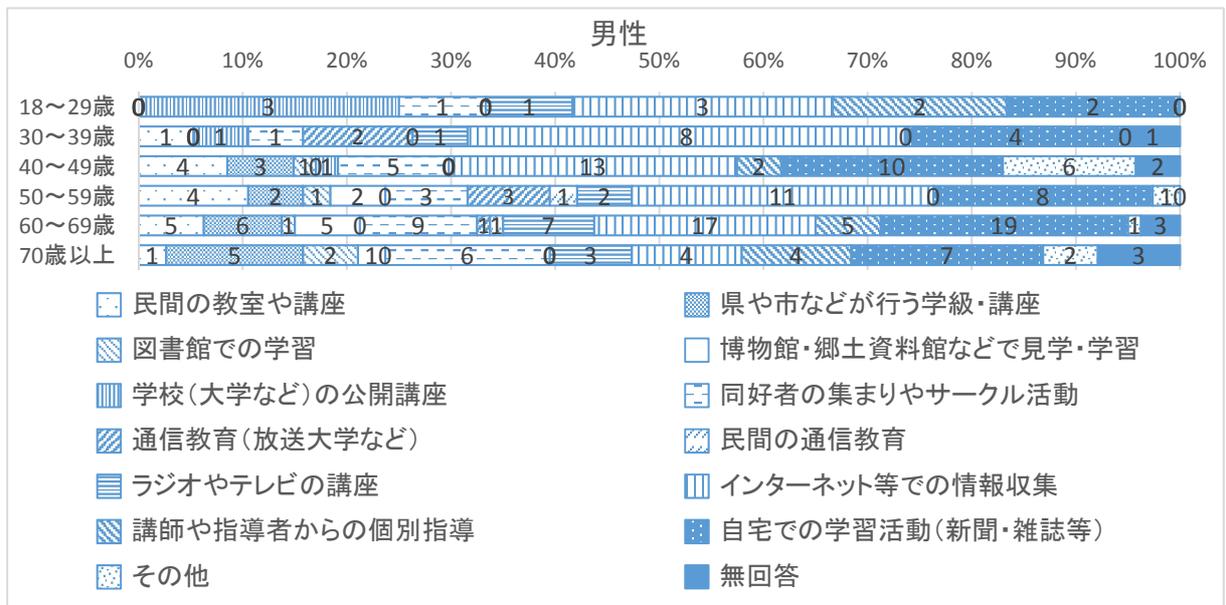
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
職業に関する知識や技術を高めるため、職業上（就職・転職）必要なため	113	15.1%	13	34.2%	17	25.8%	30	22.2%	32	18.9%	17	7.2%	4	4.0%	0	0.0%
資格を取るため	28	3.8%	5	13.2%	7	10.6%	7	5.2%	6	3.6%	2	0.9%	1	1.0%	0	0.0%
知識・教養を高めるため	62	8.3%	5	13.2%	4	6.1%	18	13.3%	20	11.8%	13	5.5%	2	2.0%	0	0.0%
体力づくりや健康管理のため	127	17.0%	1	2.6%	5	7.6%	18	13.3%	21	12.4%	54	23.0%	28	28.0%	0	0.0%
子どもの養育や教育に関する知識を深めるため	26	3.5%	2	5.3%	8	12.1%	10	7.4%	2	1.2%	1	0.4%	3	3.0%	0	0.0%
衣食住など日常生活に関する知識や技術を高めるため	36	4.8%	0	0.0%	5	7.6%	2	1.5%	9	5.3%	12	5.1%	8	8.0%	0	0.0%
趣味、芸能、芸術などを楽しんだり、技能を高めたりするため	66	8.8%	3	7.9%	5	7.6%	12	8.9%	13	7.7%	22	9.4%	10	10.0%	1	33.3%
生活を豊かに過ごすため、生きがいづくりのため	81	10.9%	2	5.3%	2	3.0%	5	3.7%	15	8.9%	43	18.3%	14	14.0%	0	0.0%
社会の変化に対応するため	17	2.3%	1	2.6%	0	0.0%	3	2.2%	3	1.8%	6	2.6%	4	4.0%	0	0.0%
社会に役立つ活動に参加するため	21	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.7%	4	2.4%	7	3.0%	5	5.0%	0	0.0%
友人や仲間を得るため	20	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.0%	1	0.6%	7	3.0%	7	7.0%	1	33.3%
その他	2	0.3%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
無回答	147	19.7%	5	13.2%	13	19.7%	21	15.6%	43	25.4%	51	21.7%	13	13.0%	1	33.3%
合計	746	100.0%	38	100.0%	66	100.0%	135	100.0%	169	100.0%	235	100.0%	100	100.0%	3	100.0%



問4 あなたは、過去1年間に主にどんな方法で学習を行いましたか。当てはまる項目から2つまでチェックをつけてください。

各年代で「自宅での学習活動」や「インターネット等での情報収集」など個人でできる学習方法を選択しています。前回調査でも同様の結果となりましたが、「インターネット等での情報収集」は項目での回答順位が上がっています。また、男女別では男性は「インターネット等での情報収集」の割合が高く、女性は「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなど教室や講座」の割合が高い結果となりました。

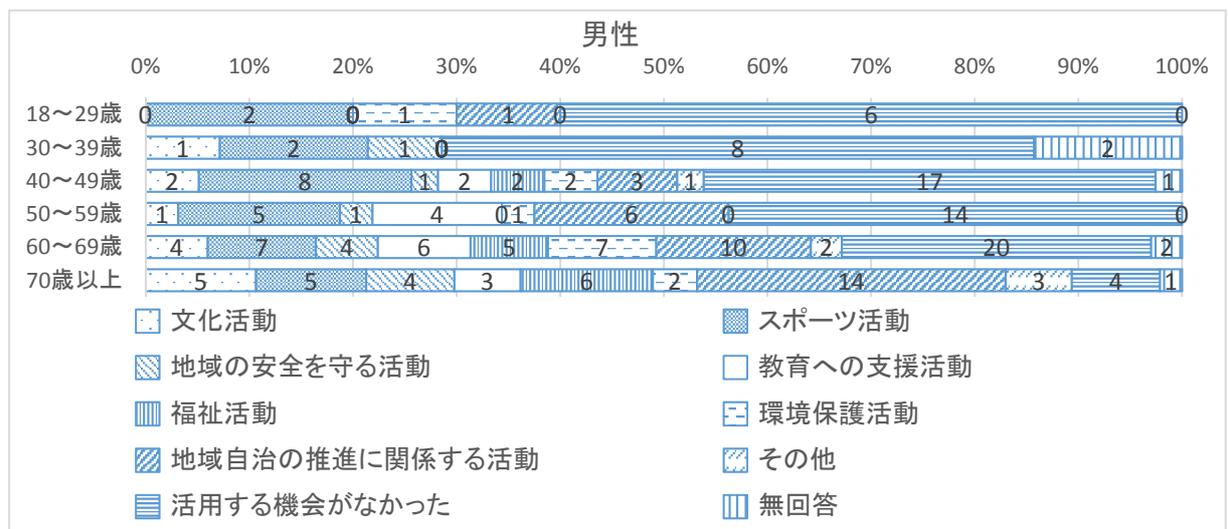
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなど教室や講座	59	10.7%	0	0.0%	4	8.3%	13	12.4%	16	13.7%	18	10.5%	7	9.2%	1	50.0%
公民館などでの県や市などが行う学級・講座	41	7.4%	1	3.2%	3	6.3%	9	8.6%	6	5.1%	11	6.4%	11	14.5%	0	0.0%
図書館での学習	16	2.9%	1	3.2%	2	4.2%	4	3.8%	3	2.6%	3	1.7%	3	3.9%	0	0.0%
博物館・郷土資料館などでの見学・学習	13	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.3%	7	4.1%	1	1.3%	0	0.0%
学校(大学など)の公開講座	12	2.2%	6	19.4%	2	4.2%	2	1.9%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
同好者が自主的に行っているグループやサークルでの活動	62	11.3%	5	16.1%	2	4.2%	7	6.7%	8	6.8%	25	14.5%	14	18.4%	1	50.0%
通信教育(放送大学など)	6	1.1%	0	0.0%	2	4.2%	0	0.0%	3	2.6%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
民間の通信教育	6	1.1%	0	0.0%	1	2.1%	1	1.0%	1	0.9%	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
ラジオやテレビの講座	36	6.5%	1	3.2%	1	2.1%	4	3.8%	8	6.8%	15	8.7%	7	9.2%	0	0.0%
インターネット等での情報収集	91	16.5%	5	16.1%	14	29.2%	17	16.2%	26	22.2%	24	14.0%	5	6.6%	0	0.0%
講師や指導者からの個別指導	28	5.1%	3	9.7%	2	4.2%	5	4.8%	5	4.3%	9	5.2%	4	5.3%	0	0.0%
自宅での学習活動(新聞・雑誌等の出版物を利用)	121	22.0%	7	22.6%	11	22.9%	21	20.0%	23	19.7%	46	26.7%	13	17.1%	0	0.0%
その他	35	6.4%	2	6.5%	2	4.2%	14	13.3%	10	8.5%	4	2.3%	3	3.9%	0	0.0%
無回答	25	4.5%	0	0.0%	2	4.2%	8	7.6%	1	0.9%	6	3.5%	8	10.5%	0	0.0%
合計	551	100.0%	31	100.0%	48	100.0%	105	100.0%	117	100.0%	172	100.0%	76	100.0%	2	100.0%

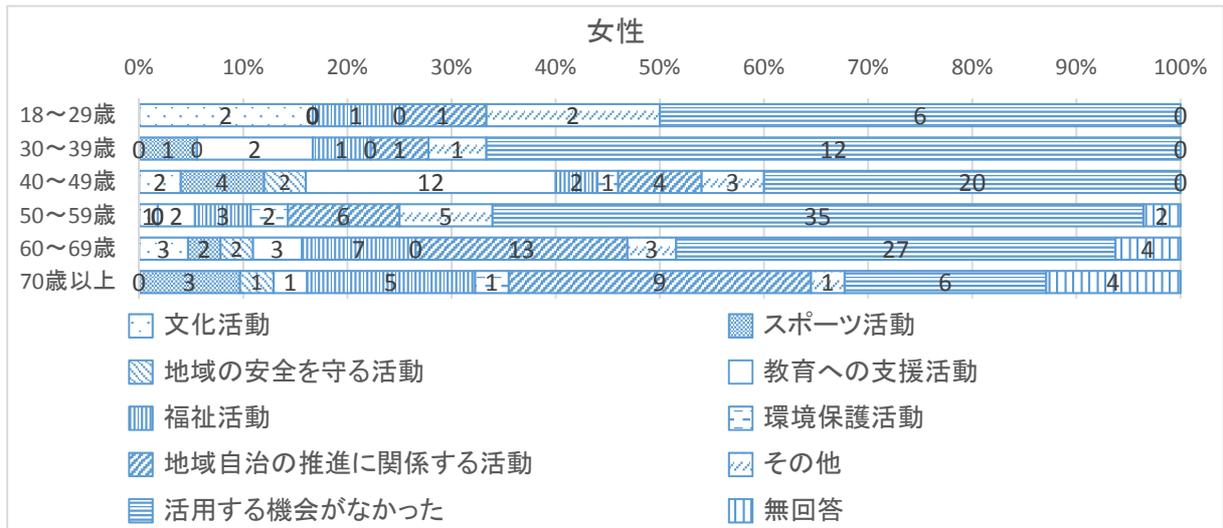


問5 あなたは、その学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、家庭や職場以外の地域社会（町内会、PTA、スポーツクラブ、サークル活動など）でどのような活動に役立てましたか。当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

約4割の方が学習した成果を「活用する機会がなかった」と回答しています。一方、学習成果を役立てた活動は、50歳代から70歳代では「地域自治の推進に関する活動（町内会・老人クラブ等の活動など）」、男性の40歳代では「スポーツ活動（スポーツ指導、健康増進活動やスポーツ行事の支援など）」、女性の30歳代～40歳代では「教育への支援活動（町内PTAなどへの協力、学校への協力、通学時の見守りなど）」の割合が高い結果となりました。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
文化活動（伝統芸能・行事の保存・伝承、文化財の保存・紹介など）	22	4.8%	2	9.1%	2	5.9%	4	4.3%	2	2.2%	7	5.2%	5	6.3%	0	0.0%
スポーツ活動（スポーツ指導、健康増進活動やスポーツ行事の支援など）	40	8.8%	2	9.1%	3	8.8%	12	13.0%	5	5.5%	9	6.7%	8	10.0%	1	50.0%
地域の安全を守る活動（交通安全、地域巡回など）	17	3.7%	0	0.0%	1	2.9%	3	3.3%	1	1.1%	6	4.5%	5	6.3%	1	50.0%
教育への支援活動（町内PTAなどへの協力、学校への協力、通学時の見守りなど）	36	7.9%	0	0.0%	2	5.9%	14	15.2%	6	6.6%	10	7.5%	4	5.0%	0	0.0%
福祉活動（募金、養護施設への支援など）	32	7.0%	1	4.5%	1	2.9%	4	4.3%	3	3.3%	12	9.0%	11	13.8%	0	0.0%
環境保護活動（地域美化、自然保護など）	17	3.7%	1	4.5%	0	0.0%	3	3.3%	3	3.3%	7	5.2%	3	3.8%	0	0.0%
地域自治の推進に関する活動（町内会・老人クラブ等の活動など）	69	15.2%	2	9.1%	1	2.9%	8	8.7%	12	13.2%	23	17.2%	23	28.8%	0	0.0%
その他	22	4.8%	2	9.1%	1	2.9%	4	4.3%	6	6.6%	5	3.7%	4	5.0%	0	0.0%
活用する機会がなかった	181	39.8%	12	54.5%	20	58.8%	39	42.4%	51	56.0%	48	35.8%	11	13.8%	0	0.0%
無回答	19	4.2%	0	0.0%	3	8.8%	1	1.1%	2	2.2%	7	5.2%	6	7.5%	0	0.0%
合計	455	100.0%	22	100.0%	34	100.0%	92	100.0%	91	100.0%	134	100.0%	80	100.0%	2	100.0%





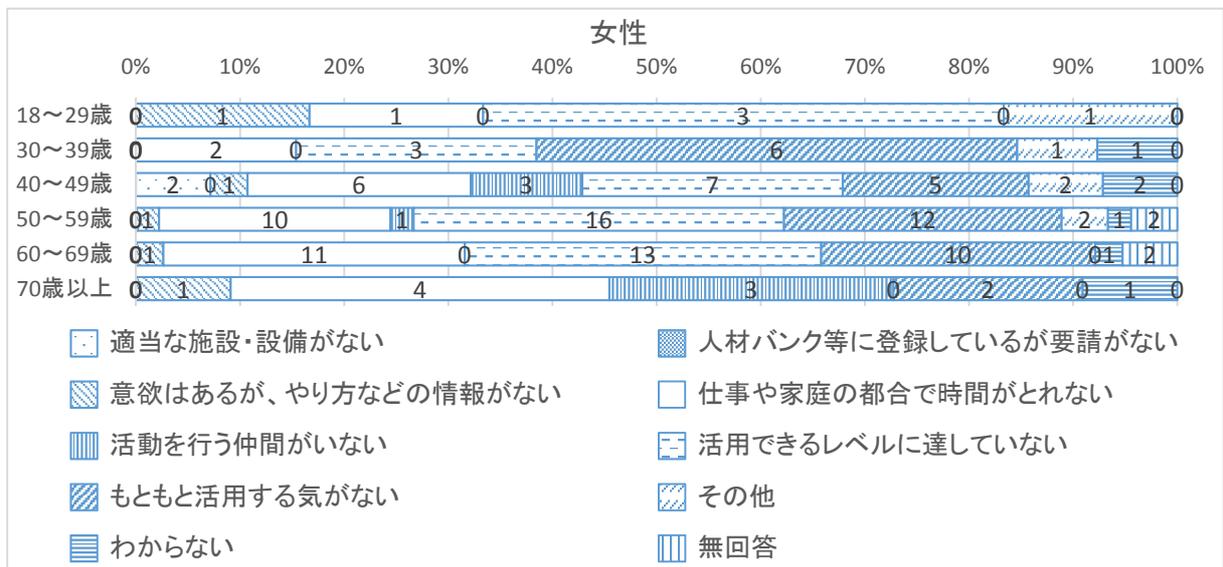
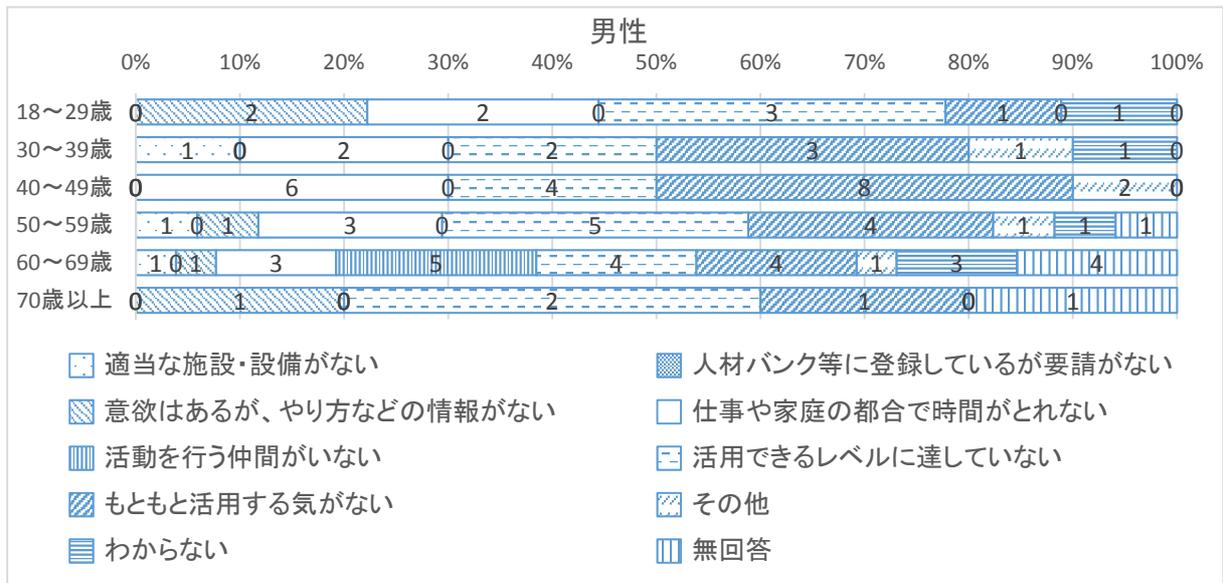
問6 問5で、「活用する機会がなかった」と回答した方にお聞きします

地域社会で役立てる機会がなかった理由は何ですか。当てはまる項目から2つまでチェックをつけてください。

各年代で「まだ活用できるレベルに達していない」、「もともと活用する気がない」の回答が多く、いずれも女性の割合が高くなっています。「もともと活用する気がない」は18～29歳代を除く年代で21%を超えていますが、18～29歳代では6.7%と他の年代より割合が低い傾向が見られます。

一方で18～29歳代では「まだ活用できるレベルに達していない」の割合が40%と最も高く、次いで「活動を行う意欲はあるが、やり方や方法などの情報がない」、「仕事や家庭の都合で時間がとれない」の割合が20%となっています。このことから条件を整えば、若い世代の活用も期待できます。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
活動を行うための適当な施設・設備がない	6	2.5%	0	0.0%	1	4.3%	3	5.8%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
人材バンク等に登録しているが要請がない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
活動を行う意欲はあるが、やり方や方法などの情報がない	11	4.7%	3	20.0%	0	0.0%	1	1.9%	3	4.7%	2	3.1%	2	11.8%
仕事や家庭の都合で時間がとれない	51	21.6%	3	20.0%	4	17.4%	13	25.0%	13	20.3%	14	21.5%	4	23.5%
活動を行う仲間がいない	12	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.8%	1	1.6%	5	7.7%	3	17.6%
まだ活用できるレベルに達していない	64	27.1%	6	40.0%	5	21.7%	13	25.0%	21	32.8%	17	26.2%	2	11.8%
もともと活用する気がない	57	24.2%	1	6.7%	9	39.1%	13	25.0%	16	25.0%	14	21.5%	4	23.5%
その他	11	4.7%	1	6.7%	2	8.7%	4	7.7%	3	4.7%	1	1.5%	0	0.0%
わからない	13	5.5%	1	6.7%	2	8.7%	2	3.8%	3	4.7%	4	6.2%	1	5.9%
無回答	11	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.7%	7	10.8%	1	5.9%
合計	236	100.0%	15	100.0%	23	100.0%	52	100.0%	64	100.0%	65	100.0%	17	100.0%

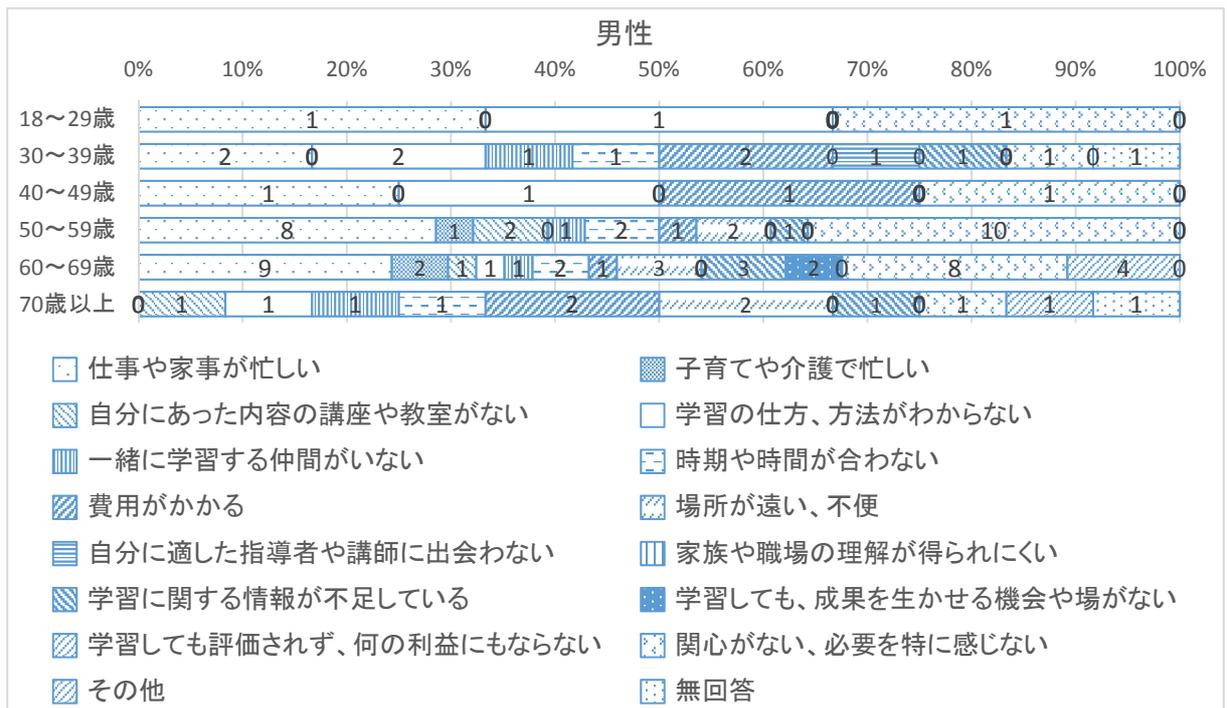


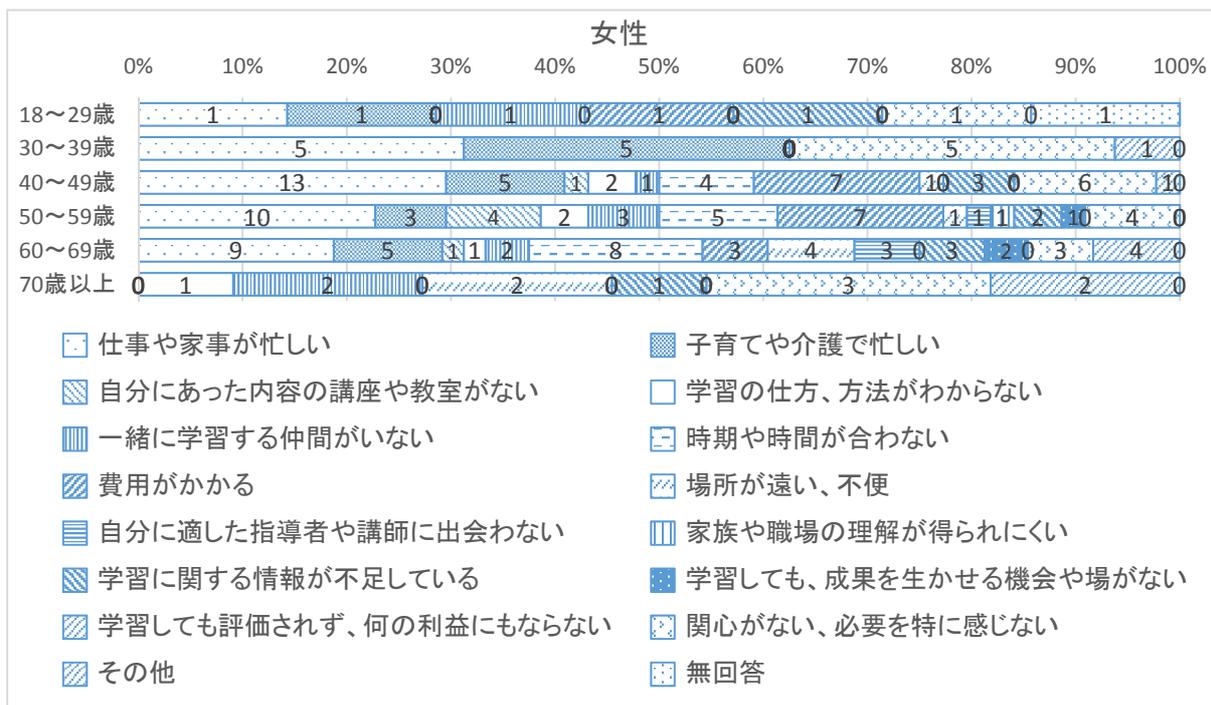
問7 問2で、「していない」と回答した方にお聞きします

あなたが学習していない主な理由は何ですか。当てはまる項目から3つまでチェックをつけてください。

前回調査と同様に「仕事や家事が忙しくて学習の時間がとれない」の割合が最も高く、次いで「学習に関心がない、学習する必要が特に感じない」が高い結果となりました。前回調査で多かった「学習の機会などに関する情報不足」は低い割合となっています。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事や家事が忙しくて学習の時間がとれない	62	22.1%	2	20.0%	7	25.0%	15	30.0%	19	25.3%	18	19.8%	1	3.8%
子育てや介護で学習の時間がとれない	24	8.6%	1	10.0%	5	17.9%	5	10.0%	5	6.7%	8	8.8%	0	0.0%
自分にあった学習内容の講座や教室がない	10	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	6	8.0%	2	2.2%	1	3.8%
学習の仕方、方法がわからない	12	4.3%	1	10.0%	2	7.1%	3	6.0%	2	2.7%	2	2.2%	2	7.7%
一緒に学習する仲間がいない	13	4.6%	1	10.0%	1	3.6%	1	2.0%	4	5.3%	3	3.3%	3	11.5%
学習を行う時期や時間が合わない	23	8.2%	0	0.0%	1	3.6%	4	8.0%	7	9.3%	10	11.0%	1	3.8%
費用がかかる	29	10.4%	1	10.0%	2	7.1%	8	16.0%	9	12.0%	6	6.6%	3	11.5%
学習する場所が遠かったり、不便だったりする	17	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	3	4.0%	9	9.9%	4	15.4%
自分に適した指導者や講師に出会わない	6	2.1%	0	0.0%	1	3.6%	1	2.0%	1	1.3%	3	3.3%	0	0.0%
家族や職場の理解が得られにくい	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	1	1.1%	0	0.0%
どこでどのような学習ができるのか、学習の機会などに関する情報が不足している	16	5.7%	1	10.0%	1	3.6%	3	6.0%	3	4.0%	6	6.6%	2	7.7%
学習しても、成果を生かせる機会や場がない	6	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	4	4.4%	1	3.8%
学習しても評価されず、何の利益にもならない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学習に関心がない、学習する必要を特に感じない	44	15.7%	2	20.0%	6	21.4%	7	14.0%	14	18.7%	11	12.1%	4	15.4%
その他	13	4.6%	0	0.0%	1	3.6%	1	2.0%	0	0.0%	8	8.8%	3	11.5%
無回答	3	1.1%	1	10.0%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
合計	280	100.0%	10	100.0%	28	100.0%	50	100.0%	75	100.0%	91	100.0%	26	100.0%





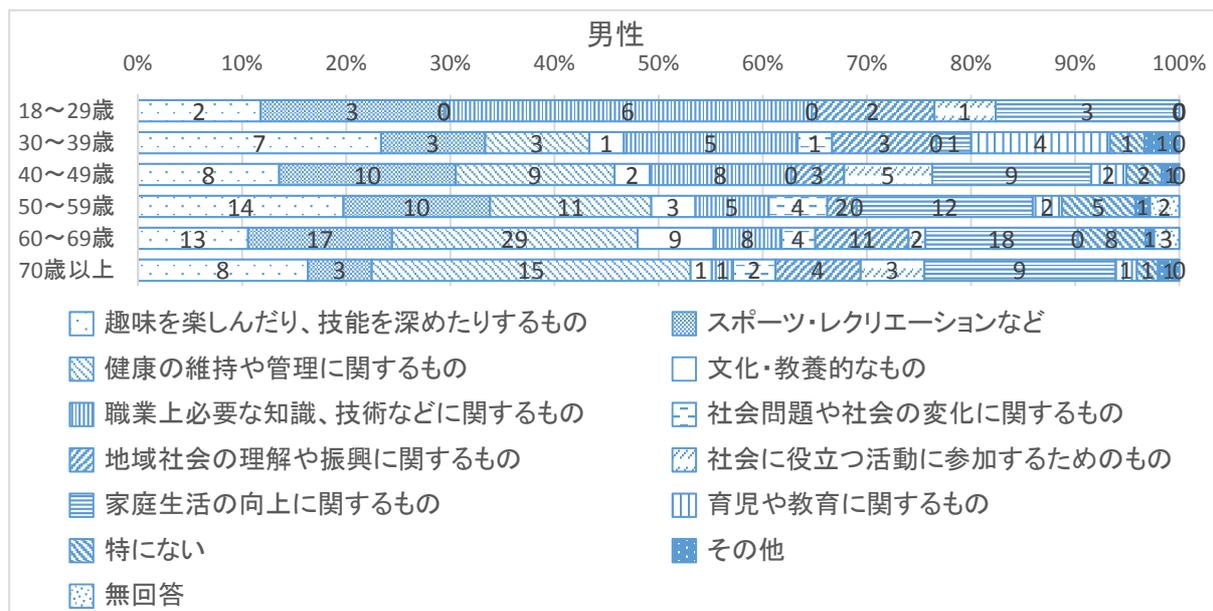
<全員の方に質問です>

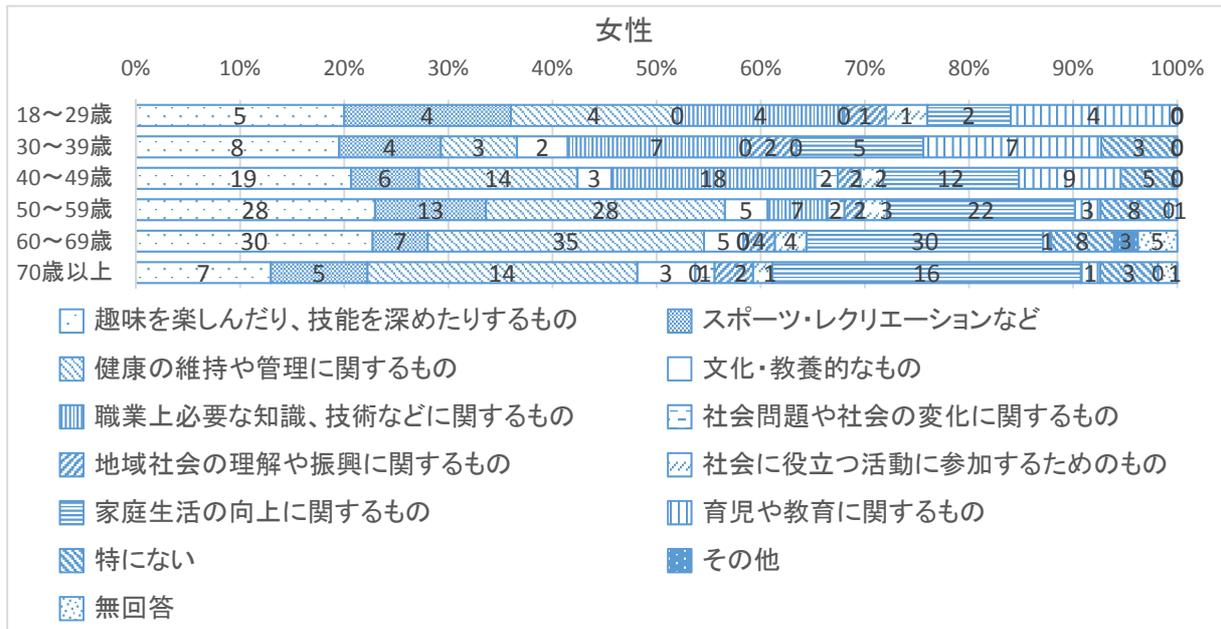
問8 あなたが、今後5年くらいの間学習を行う場合、主にどんな内容を希望しますか。当てはまる項目から2つまでチェックをつけてください。

年代が上がるにつれて「健康の維持や管理に関するもの（健康法、ウォーキング、看護や介護法など）」に関心が高くなる傾向が見られます。前回調査と比較して、30歳代では「職業上必要な知識、技術などに関するもの」の割合が高くなっています。これは前回調査になかった「今後5年位」の期間を定めたことに起因すると考えられます。60歳以上では「家庭生活の向上に関するもの（衣食住など日常生活に関する知識や技術、消費生活、老後の過ごし方、家族関係など）」に関心が高くなっています。

また男女別にみると、「趣味を楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道、パソコンなど）」は、女性の関心が高く、男性では「スポーツ・レクリエーションなど（球技、ダンス、ハイキングなど）」の関心が高い結果となりました。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
趣味を楽しんだり、技能を深めたりするもの (音楽、手芸、茶道、書道、パソコンなど)	155	18.3%	7	16.7%	15	20.0%	28	17.6%	44	22.1%	44	16.9%	16	15.0%	1	33.3%
スポーツ・レクリエーションなど(球技、ダンス、ハイキングなど)	87	10.3%	7	16.7%	8	10.7%	16	10.1%	23	11.6%	24	9.2%	8	7.5%	1	33.3%
健康の維持や管理に関するもの(健康法、ウォーキング、看護や介護法など)	167	19.7%	4	9.5%	7	9.3%	23	14.5%	39	19.6%	65	24.9%	29	27.1%	0	0.0%
文化・教養的なもの(歴史、文学、演劇、文芸など)	36	4.3%	0	0.0%	3	4.0%	6	3.8%	9	4.5%	14	5.4%	4	3.7%	0	0.0%
職業上必要な知識、技術などに関するもの (仕事に関する知識・技術など)	73	8.6%	10	23.8%	12	16.0%	29	18.2%	13	6.5%	8	3.1%	1	0.9%	0	0.0%
社会問題や社会の変化に関するもの(経済、教育、人権、男女共同参画など)	18	2.1%	0	0.0%	1	1.3%	3	1.9%	6	3.0%	5	1.9%	3	2.8%	0	0.0%
地域社会の理解や振興に関するもの(まちづくり、伝統芸能、自然環境、人間関係など)	40	4.7%	3	7.1%	5	6.7%	6	3.8%	4	2.0%	16	6.1%	6	5.6%	0	0.0%
社会に役立つ活動に参加するためのもの(指導者としての研修、ボランティア活動など)	22	2.6%	2	4.8%	0	0.0%	7	4.4%	3	1.5%	6	2.3%	4	3.7%	0	0.0%
家庭生活の向上に関するもの(衣食住など日常生活に関する知識や技術、消費生活、老後の過ごし方、家族関係など)	144	17.0%	5	11.9%	7	9.3%	21	13.2%	36	18.1%	48	18.4%	27	25.2%	0	0.0%
育児や教育に関するもの(育児、PTA活動、学校ボランティアなど)	36	4.3%	4	9.5%	12	16.0%	12	7.5%	5	2.5%	1	0.4%	2	1.9%	0	0.0%
特にない	45	5.3%	0	0.0%	4	5.3%	7	4.4%	13	6.5%	17	6.5%	4	3.7%	0	0.0%
その他	9	1.1%	0	0.0%	1	1.3%	1	0.6%	1	0.5%	4	1.5%	2	1.9%	0	0.0%
無回答	14	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%	9	3.4%	1	0.9%	1	33.3%
合計	846	100.0%	42	100.0%	75	100.0%	159	100.0%	199	100.0%	261	100.0%	107	100.0%	3	100.0%

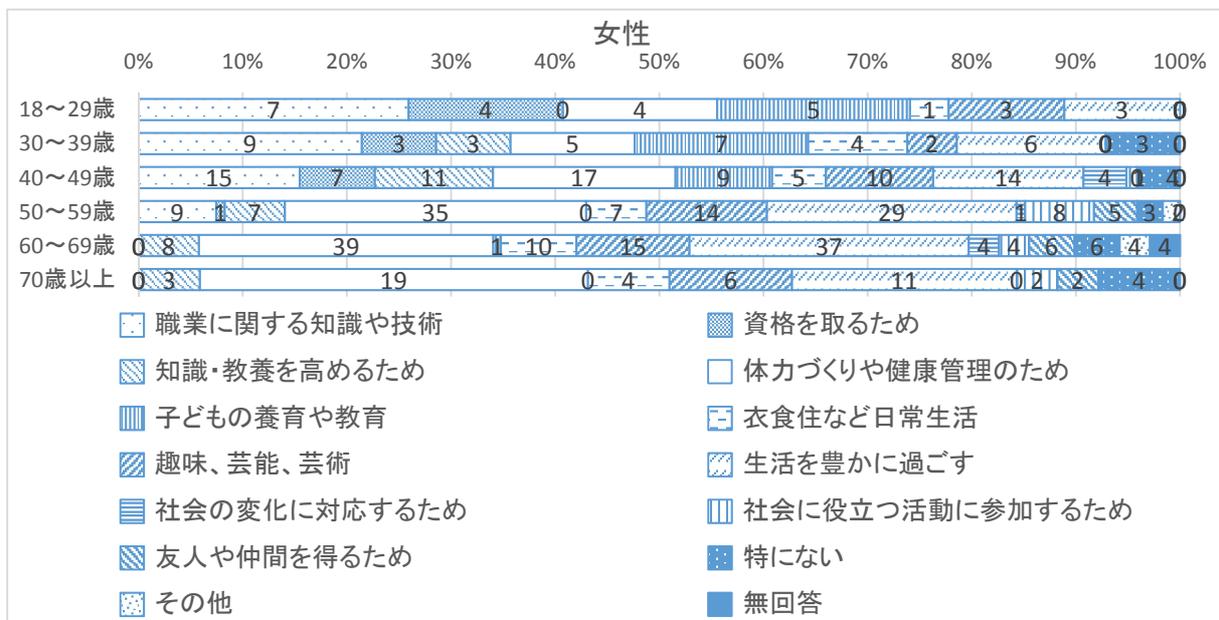
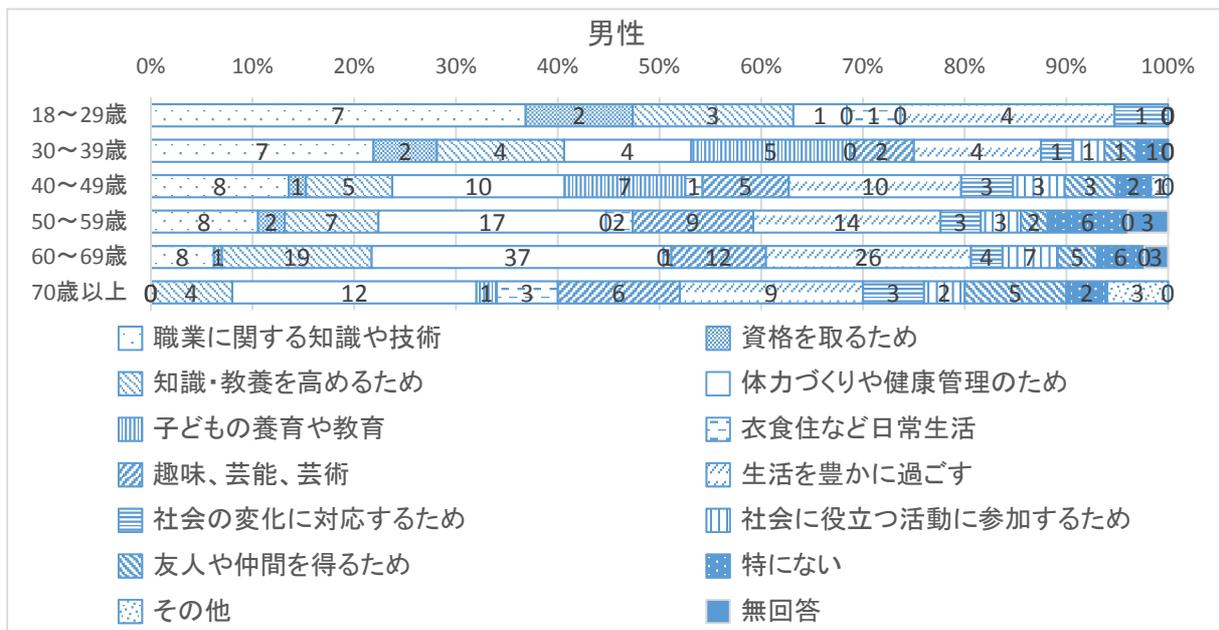




問9 あなたが、今後5年くらいの間に学習を行う場合、主な目的や動機は何ですか。当てはまる項目から2つまでチェックをつけてください。

若い18～29歳から、30歳代では「職業に関する知識や技術を高めるため、職業（就職・転職）上必要なため」が高い割合となっています。一方、40歳代以上では「体力づくりや健康管理のため」、「生活を豊かに過ごすため、生きがいづくりのため」の割合が高く、自分自身の健康や生きがいのために学習を行う傾向がみられます。

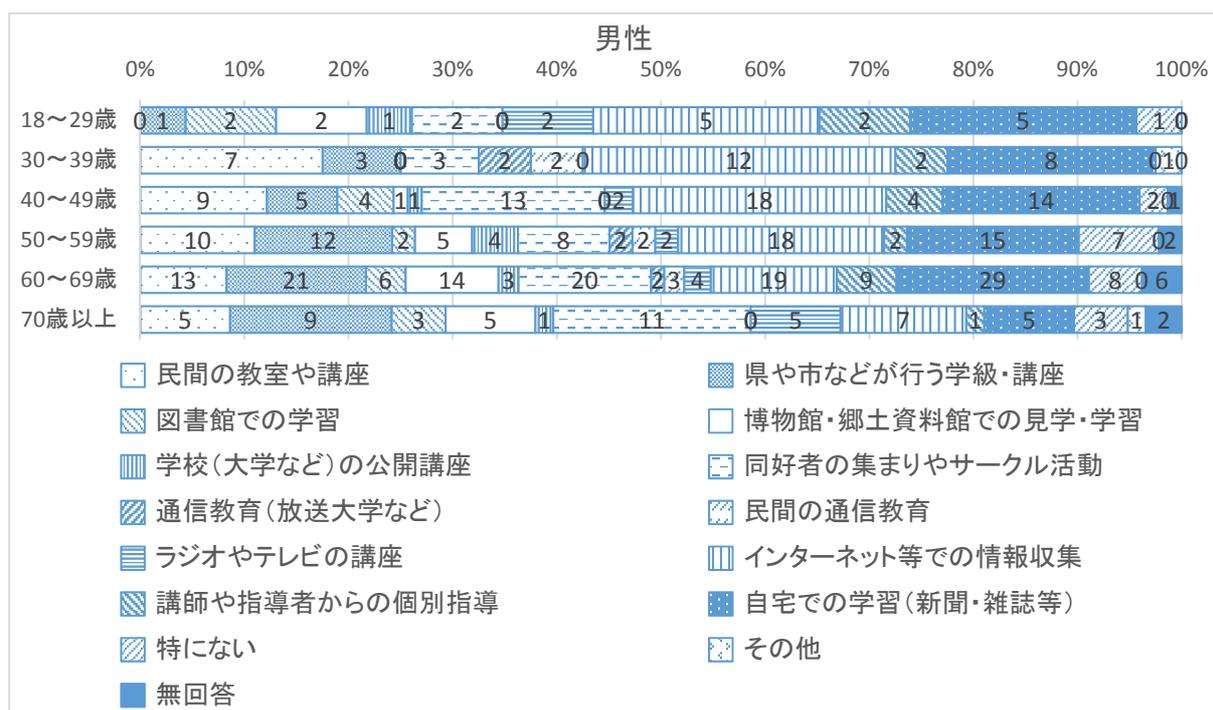
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
職業に関する知識や技術を高めるため、職業（就職・転職）上必要なため	83	9.5%	14	30.4%	17	21.8%	26	15.9%	18	8.9%	8	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
資格を取るため	24	2.7%	6	13.0%	5	6.4%	8	4.9%	4	2.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
知識・教養を高めるため	77	8.8%	3	6.5%	7	9.0%	16	9.8%	15	7.4%	28	10.2%	8	7.5%	0	0.0%
体力づくりや健康管理のため	205	23.5%	5	10.9%	11	14.1%	27	16.5%	52	25.6%	77	28.1%	32	30.2%	1	33.3%
子どもの養育や教育に関する知識を深めるため	37	4.2%	5	10.9%	13	16.7%	17	10.4%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.9%	0	0.0%
衣食住など日常生活に関する知識や技術を高めるため	39	4.5%	2	4.3%	4	5.1%	6	3.7%	9	4.4%	11	4.0%	7	6.6%	0	0.0%
趣味、芸能、芸術などを楽しんだり、技能を高めたりするため	87	10.0%	3	6.5%	4	5.1%	15	9.1%	24	11.8%	28	10.2%	13	12.3%	0	0.0%
生活を豊かに過ごすため、生きがいづくりのため	171	19.6%	7	15.2%	10	12.8%	25	15.2%	44	21.7%	64	23.4%	21	19.8%	0	0.0%
社会の変化に対応するため	27	3.1%	1	2.2%	1	1.3%	9	5.5%	4	2.0%	9	3.3%	3	2.8%	0	0.0%
社会に役立つ活動に参加するため	32	3.7%	0	0.0%	1	1.3%	5	3.0%	11	5.4%	11	4.0%	4	3.8%	0	0.0%
友人や仲間を得るため	30	3.4%	0	0.0%	1	1.3%	3	1.8%	7	3.4%	11	4.0%	7	6.6%	1	33.3%
特にない	39	4.5%	0	0.0%	4	5.1%	6	3.7%	9	4.4%	13	4.7%	7	6.6%	0	0.0%
その他	11	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	3	1.5%	4	1.5%	3	2.8%	0	0.0%
無回答	12	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%	8	2.9%	0	0.0%	1	33.3%
合計	874	100.0%	46	100.0%	78	100.0%	164	100.0%	203	100.0%	274	100.0%	106	100.0%	3	100.0%

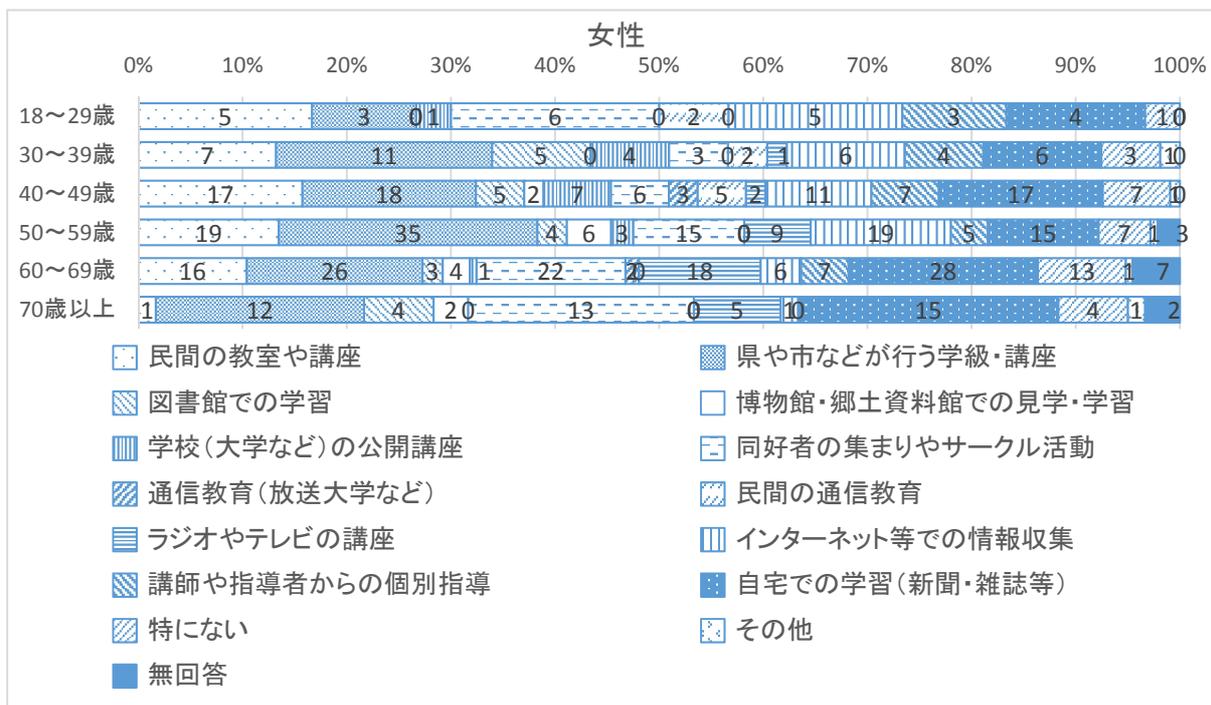


問 10 あなたが、今後5年くらいの間に学習を行う場合、主にどんな方法を希望しますか。当てはまる項目から3つまでチェックをつけてください。

全体では、「自宅で学習活動（新聞・雑誌等の出版物を利用）」の割合が高い結果となりました。また、年代別に見ると 50 歳代から 60 歳代では、「公民館などでの県や市が行う学級・講座」、18~29 歳から 30 歳代では「インターネット等での情報収集」の割合がそれぞれ高くなっています。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなど教室や講座	112	10.9%	5	9.4%	14	14.4%	28	14.8%	29	12.1%	29	9.1%	6	4.8%	1	33.3%
公民館などでの県や市などが行う学級・講座	158	15.4%	4	7.5%	14	14.4%	23	12.2%	49	20.4%	47	14.7%	21	16.9%	0	0.0%
図書館での学習	40	3.9%	2	3.8%	5	5.2%	9	4.8%	7	2.9%	9	2.8%	8	6.5%	0	0.0%
博物館・郷土資料館などでの見学・学習	43	4.2%	2	3.8%	0	0.0%	4	2.1%	11	4.6%	19	6.0%	7	5.6%	0	0.0%
学校(大学など)の公開講座	28	2.7%	2	3.8%	4	4.1%	9	4.8%	8	3.3%	4	1.3%	1	0.8%	0	0.0%
同好者が自主的に行っているグループやサークルでの活動	128	12.5%	8	15.1%	6	6.2%	19	10.1%	25	10.4%	44	13.8%	25	20.2%	1	33.3%
通信教育(放送大学など)	11	1.1%	0	0.0%	2	2.1%	3	1.6%	2	0.8%	4	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
民間の通信教育	16	1.6%	2	3.8%	4	4.1%	5	2.6%	2	0.8%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
ラジオやテレビの講座	52	5.1%	2	3.8%	2	2.1%	4	2.1%	11	4.6%	22	6.9%	11	8.9%	0	0.0%
インターネット等での情報収集	131	12.8%	10	18.9%	19	19.6%	30	15.9%	38	15.8%	26	8.2%	8	6.5%	0	0.0%
講師や指導者からの個別指導	46	4.5%	5	9.4%	6	6.2%	11	5.8%	7	2.9%	16	5.0%	1	0.8%	0	0.0%
自宅での学習活動(新聞・雑誌等の出版物を利用)	166	16.2%	9	17.0%	15	15.5%	32	16.9%	30	12.5%	58	18.2%	22	17.7%	0	0.0%
特にない	61	6.0%	2	3.8%	4	4.1%	10	5.3%	15	6.3%	22	6.9%	8	6.5%	0	0.0%
その他	7	0.7%	0	0.0%	2	2.1%	1	0.5%	1	0.4%	1	0.3%	2	1.6%	0	0.0%
無回答	26	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	5	2.1%	15	4.7%	4	3.2%	1	33.3%
合計	1,025	100.0%	53	100.0%	97	100.0%	189	100.0%	240	100.0%	319	100.0%	124	100.0%	3	100.0%



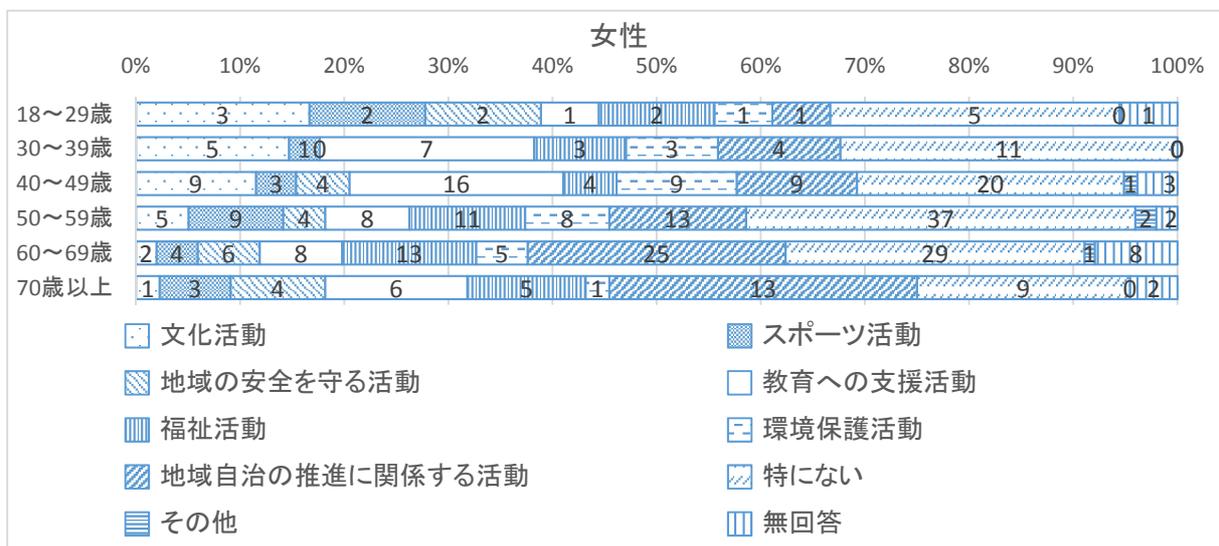
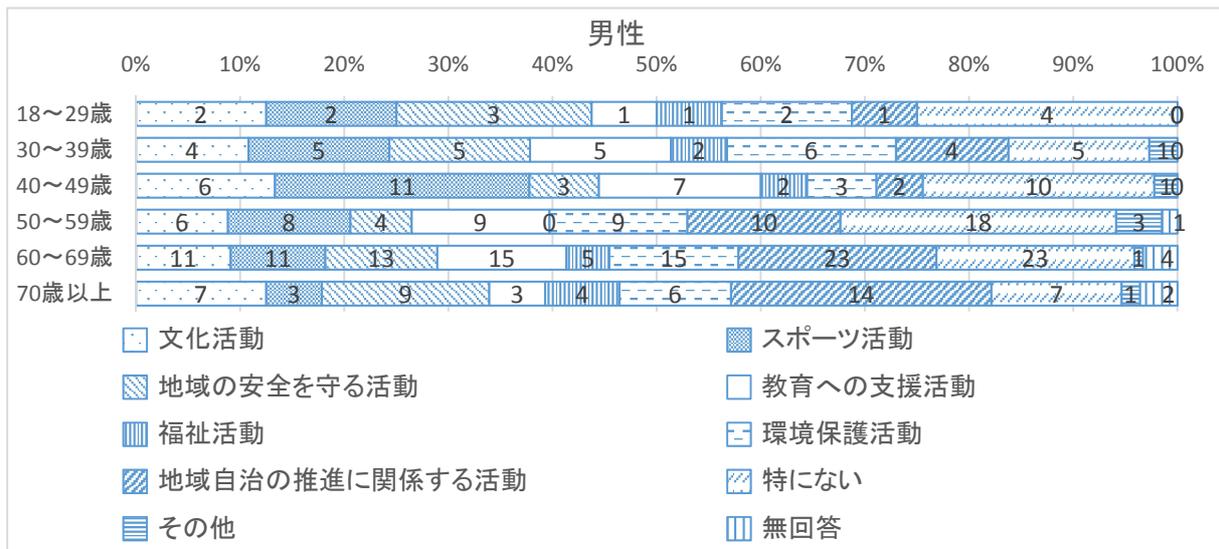


問 11 今後、学習内容を役立てるとしたら、地域社会のどのような活動に役立てたいですか。当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

50歳代以降の年代では「地域自治の推進に関する活動（町内会・老人クラブ等の活動など）」、30歳代から40歳代は、「教育への支援活動（町内PTAなどへの協力、学校への協力、通学時の見守りなど）」の割合がそれぞれ高い結果となりました。

また、18～29歳代では、「文化活動（伝統芸能・行事の保存・伝承、文化財の保存・紹介など）」、「地域の安全を守る活動（交通安全、地域巡回など）」の割合が高く、世代によって役立てたい活動内容が異なる傾向がみられます。

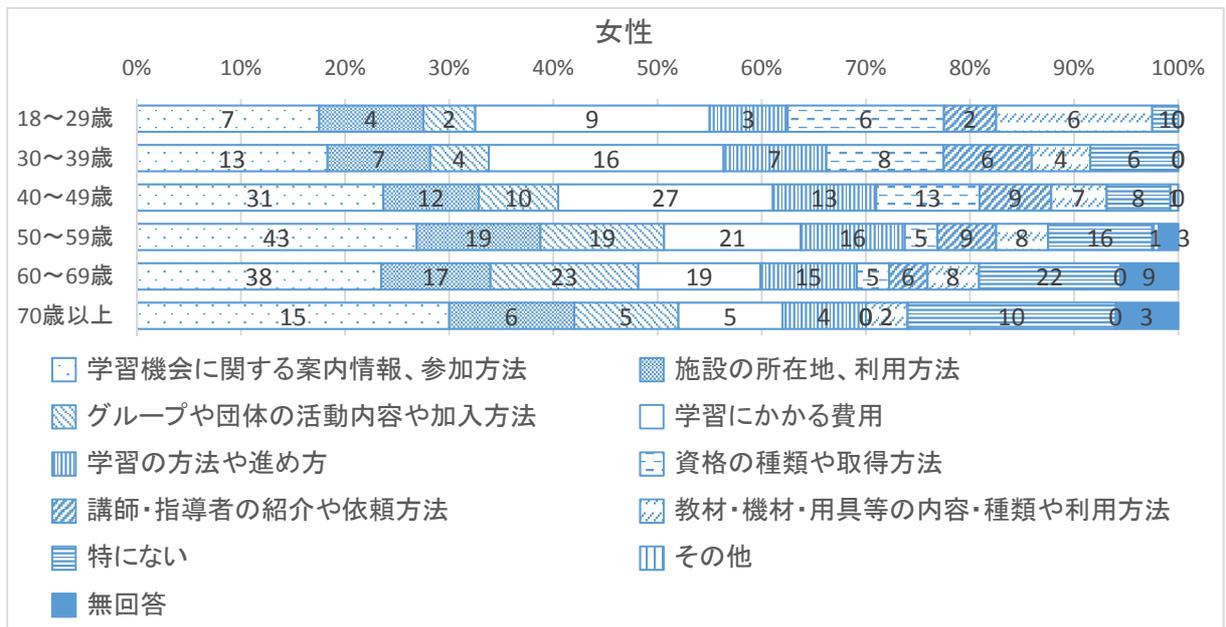
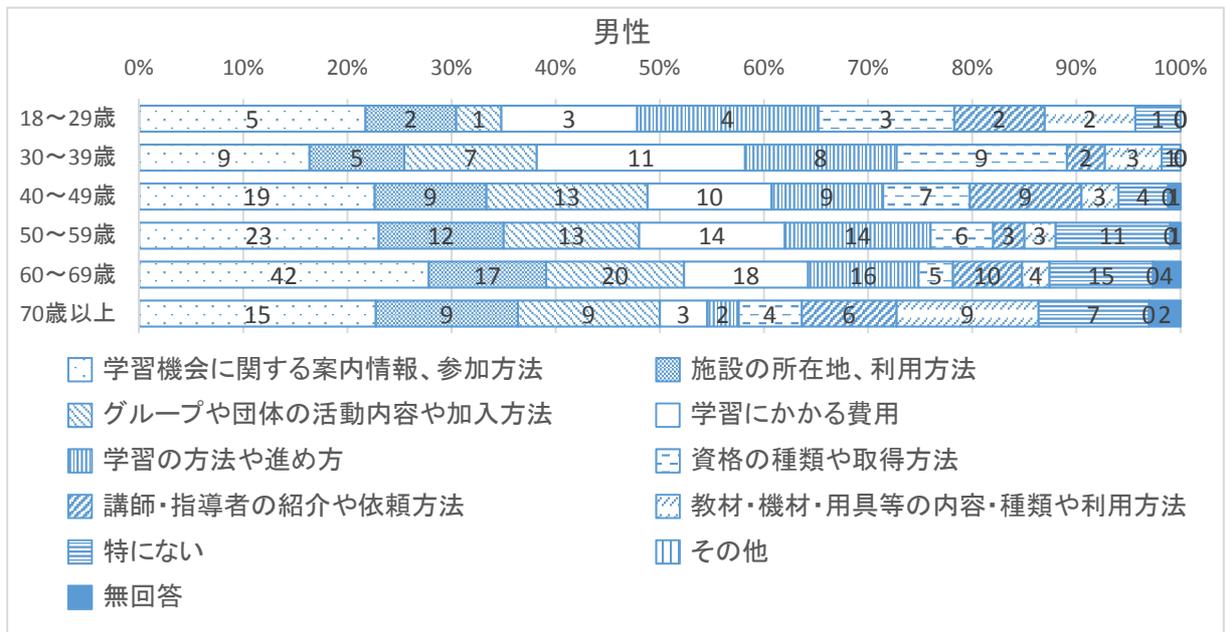
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
文化活動（伝統芸能・行事の保存・伝承、文化財の保存・紹介など）	66	8.9%	5	14.7%	10	13.7%	17	13.2%	12	7.0%	13	5.7%	8	7.8%	1	33.3%
スポーツ活動（スポーツ指導、健康増進活動やスポーツ行事の支援など）	63	8.5%	4	11.8%	6	8.2%	15	11.6%	17	9.9%	15	6.6%	6	5.8%	0	0.0%
地域の安全を守る活動（交通安全、地域巡回など）	59	8.0%	5	14.7%	5	6.8%	7	5.4%	8	4.7%	20	8.8%	13	12.6%	1	33.3%
教育への支援活動（町内PTAなどへの協力、学校への協力、通学時の見守りなど）	86	11.6%	2	5.9%	12	16.4%	23	17.8%	17	9.9%	23	10.1%	9	8.7%	0	0.0%
福祉活動（募金、養護施設への支援など）	54	7.3%	3	8.8%	5	6.8%	6	4.7%	12	7.0%	19	8.3%	9	8.7%	0	0.0%
環境保護活動（地域美化、自然保護など）	69	9.3%	3	8.8%	9	12.3%	12	9.3%	17	9.9%	21	9.2%	7	6.8%	0	0.0%
地域自治の推進に関する活動（町内会・老人クラブ等の活動など）	120	16.2%	2	5.9%	8	11.0%	12	9.3%	23	13.5%	48	21.1%	27	26.2%	0	0.0%
特にない	185	25.0%	9	26.5%	17	23.3%	31	24.0%	57	33.3%	54	23.7%	17	16.5%	0	0.0%
その他	11	1.5%	0	0.0%	1	1.4%	2	1.6%	5	2.9%	2	0.9%	1	1.0%	0	0.0%
無回答	28	3.8%	1	2.9%	0	0.0%	4	3.1%	3	1.8%	13	5.7%	6	5.8%	1	33.3%
合計	741	100.0%	34	100.0%	73	100.0%	129	100.0%	171	100.0%	228	100.0%	103	100.0%	3	100.0%



問12 これから学習活動を行うとしたら、どのような情報が必要ですか。当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

全ての年代で「講座や催し物など学習機会に関する案内情報、参加方法」の割合が高い結果となりました。また「学習にかかる費用」については18～29歳代から30歳代を中心に高い割合となっています。

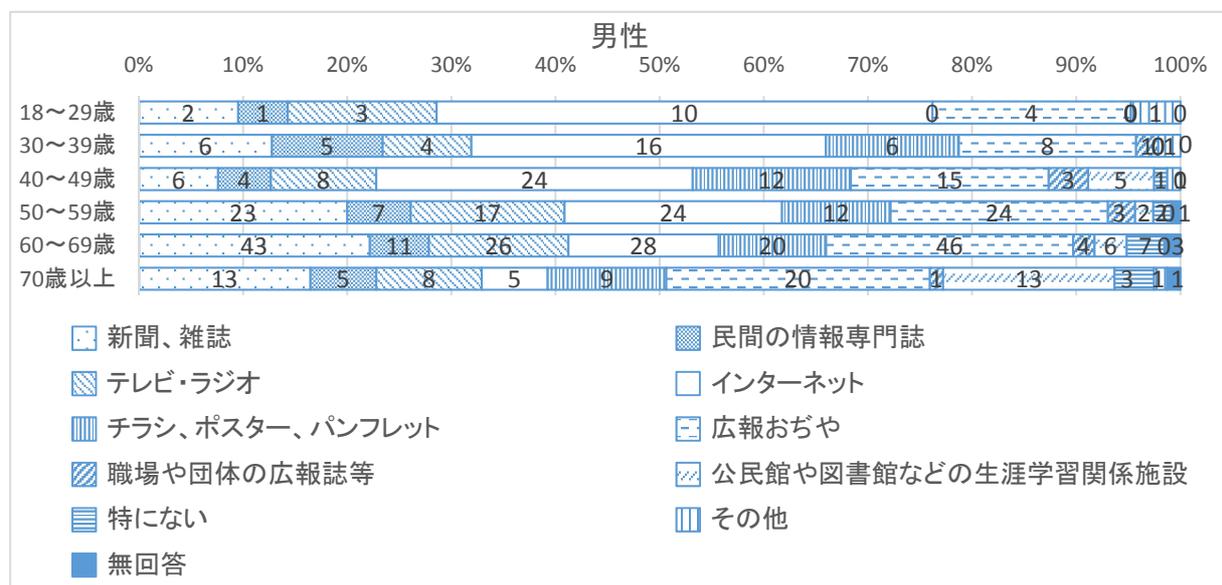
選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
講座や催し物など学習機会に関する案内情報、参加方法	266	23.6%	12	19.0%	22	17.2%	53	23.3%	67	25.3%	80	25.2%	31	25.8%	1	25.0%
施設の所在地、利用方法	125	11.1%	6	9.5%	12	9.4%	25	11.0%	31	11.7%	34	10.7%	16	13.3%	1	25.0%
グループや団体の活動内容や加入方法	128	11.4%	3	4.8%	11	8.6%	23	10.1%	32	12.1%	44	13.8%	14	11.7%	1	25.0%
学習にかかる費用	157	14.0%	12	19.0%	27	21.1%	37	16.3%	36	13.6%	37	11.6%	8	6.7%	0	0.0%
学習の方法や進め方	114	10.1%	7	11.1%	15	11.7%	25	11.0%	30	11.3%	31	9.7%	6	5.0%	0	0.0%
資格の種類や取得方法	74	6.6%	9	14.3%	17	13.3%	22	9.7%	11	4.2%	11	3.5%	4	3.3%	0	0.0%
講師・指導者の紹介や依頼方法	64	5.7%	4	6.3%	8	6.3%	18	7.9%	12	4.5%	16	5.0%	6	5.0%	0	0.0%
教材・機材・用具等の内容・種類や利用方法	59	5.2%	8	12.7%	7	5.5%	10	4.4%	11	4.2%	12	3.8%	11	9.2%	0	0.0%
特にない	110	9.8%	2	3.2%	8	6.3%	12	5.3%	30	11.3%	39	12.3%	19	15.8%	0	0.0%
その他	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	26	2.3%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.4%	4	1.5%	14	4.4%	5	4.2%	1	25.0%
合計	1,125	100.0%	63	100.0%	128	100.0%	227	100.0%	265	100.0%	318	100.0%	120	100.0%	4	100.0%

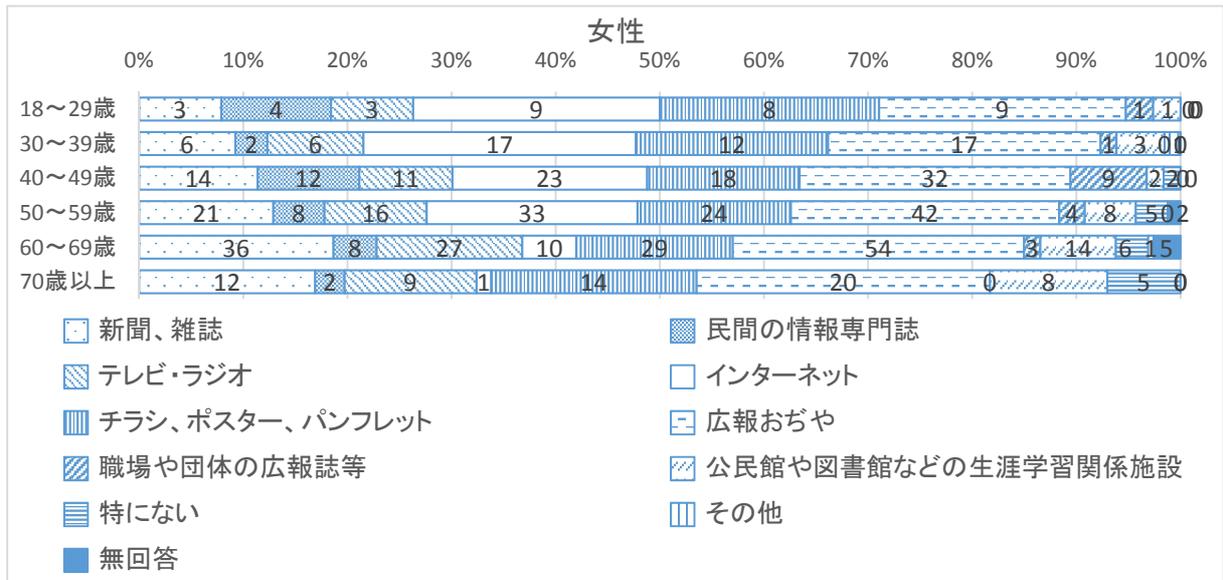


問 13 これから学習活動に関する情報を得るために、利用しやすい手段は何ですか。
 当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

全体では「広報おぢや」の割合が高い結果となりました。また、18～29 歳代から
 50 歳代では、60 歳代以上と比較し「インターネット」の割合の高さが顕著になって
 います。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
新聞、雑誌	190	15.5%	5	8.5%	13	11.2%	21	10.0%	45	15.8%	80	20.3%	26	16.6%	0	0.0%
民間の情報専門誌	73	6.0%	5	8.5%	7	6.0%	17	8.1%	15	5.3%	20	5.1%	8	5.1%	1	25.0%
テレビ・ラジオ	144	11.7%	6	10.2%	11	9.5%	21	10.0%	33	11.6%	54	13.7%	19	12.1%	0	0.0%
インターネット	207	16.9%	19	32.2%	34	29.3%	49	23.2%	60	21.1%	39	9.9%	6	3.8%	0	0.0%
チラシ、ポスター、パンフレット	167	13.6%	8	13.6%	19	16.4%	30	14.2%	36	12.6%	49	12.4%	24	15.3%	1	25.0%
広報おぢや	298	24.3%	13	22.0%	25	21.6%	49	23.2%	67	23.5%	102	25.9%	41	26.1%	1	25.0%
職場や団体の広報誌等	30	2.4%	1	1.7%	2	1.7%	12	5.7%	7	2.5%	7	1.8%	1	0.6%	0	0.0%
公民館や図書館などの生涯学習関係施設	64	5.2%	1	1.7%	3	2.6%	8	3.8%	11	3.9%	20	5.1%	21	13.4%	0	0.0%
特にない	32	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%	8	2.8%	13	3.3%	8	5.1%	0	0.0%
その他	6	0.5%	1	1.7%	2	1.7%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
無回答	15	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	9	2.3%	2	1.3%	1	25.0%
合計	1,226	100.0%	59	100.0%	116	100.0%	211	100.0%	285	100.0%	394	100.0%	157	100.0%	4	100.0%





その他回答（一部抜粋）

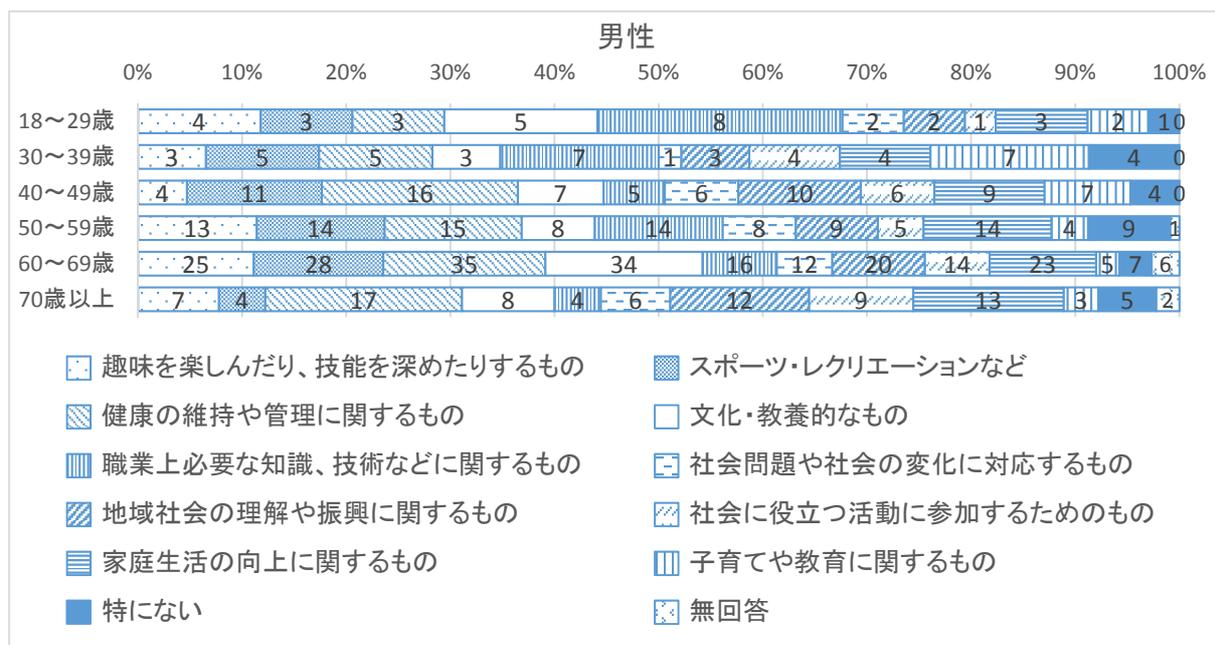
SNS	2名
-----	----

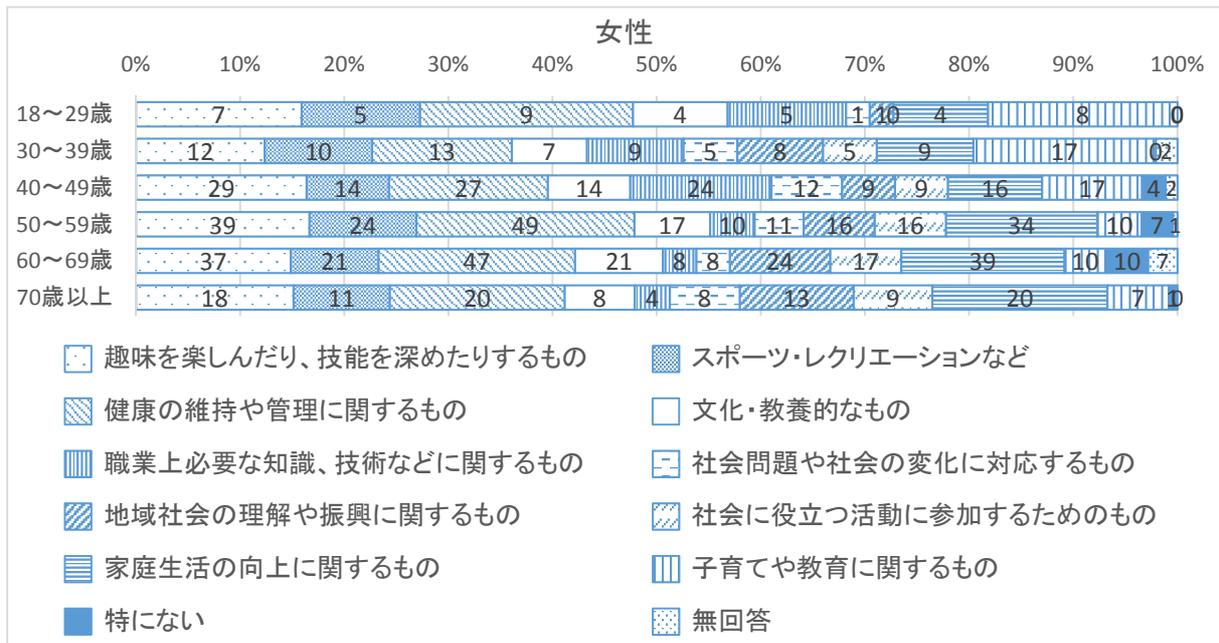
問 14 あなたは、市が行う講座に参加するとして、どんな講座があればよいとお考えですか。当てはまる項目にチェックをつけてください。また、具体的な内容すべてにチェックをつけてください。

市民が希望する講座は、「健康の維持や管理に関するもの」、「趣味を楽しんだり、技能を深めたりするもの」の割合が高い一方で、「社会問題や社会の変化に対応するもの」、「社会に役立つ活動に参加するためのもの」の割合は低く、前回調査と同様に、個人に関わる学習内容を望む傾向となりました。

問 2、問 9 では「職業上必要な知識、技術などに関するもの」が 18～29 歳から 50 歳代で高い割合となっていますが、この設問では 11～17%と低い割合となりました。市が行う講座として求める声は少ないと考えられます。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
趣味を楽しんだり、技能を深めたりするもの	203	13.0%	11	14.1%	16	10.4%	33	12.1%	54	15.2%	63	13.1%	25	11.8%	1	16.7%
スポーツ・レクリエーションなど	152	9.8%	8	10.3%	16	10.4%	25	9.2%	38	10.7%	50	10.4%	15	7.1%	0	0.0%
健康の維持や管理に関するもの	263	16.9%	12	15.4%	20	13.0%	45	16.5%	65	18.3%	83	17.3%	37	17.5%	1	16.7%
文化・教養的なもの	139	8.9%	9	11.5%	10	6.5%	23	8.5%	26	7.3%	55	11.5%	16	7.5%	0	0.0%
職業上必要な知識、技術などに関するもの	117	7.5%	13	16.7%	17	11.0%	30	11.0%	25	7.0%	24	5.0%	8	3.8%	0	0.0%
社会問題や社会の変化に対応するもの	83	5.3%	3	3.8%	7	4.5%	19	7.0%	19	5.4%	21	4.4%	14	6.6%	0	0.0%
地域社会の理解や振興に関するもの	129	8.3%	3	3.8%	12	7.8%	20	7.4%	25	7.0%	44	9.2%	25	11.8%	0	0.0%
社会に役立つ活動に参加するための学習	98	6.3%	1	1.3%	10	6.5%	15	5.5%	21	5.9%	32	6.7%	18	8.5%	1	16.7%
家庭生活の向上に関するもの	195	12.5%	7	9.0%	15	9.7%	27	9.9%	49	13.8%	62	12.9%	34	16.0%	1	16.7%
子育てや教育に関するもの	100	6.4%	10	12.8%	25	16.2%	25	9.2%	14	3.9%	15	3.1%	10	4.7%	1	16.7%
特にない	54	3.5%	1	1.3%	4	2.6%	8	2.9%	17	4.8%	17	3.5%	7	3.3%	0	0.0%
無回答	24	1.5%	0	0.0%	2	1.3%	2	0.7%	2	0.6%	14	2.9%	3	1.4%	1	16.7%
合計	1,557	100.0%	78	100.0%	154	100.0%	272	100.0%	355	100.0%	480	100.0%	212	100.0%	6	100.0%





その他の回答（一部抜粋）

健康体操・ストレッチ教室	4名	絵画	3名
園芸・ガーデニング	2名		

問 15 自分が住んでいる地域をよくするために、自分は何をしたいと思いますか。当てはまる項目すべてにチェックをつけてください。

全体では「地域の絆を高めるために行事などに参加する」、「人との交流を盛んにする」の割合が高い結果となりました。また、18～29歳代は他の年代より「地域の絆を高めるために行事などに参加する」の割合が低く、問 1（8）における各種地域団体の活動の参加割合が低い要因の一つと考えられます。

一方で 18～29歳代の「地域のことを知る、学ぶ」は「人との交流を盛んにする」に次いで高い結果となっており、地域に対する関心は高いといえます。

選択項目	総計		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とりあえず学び続ける	72	7.0%	7	15.6%	5	5.2%	15	9.0%	15	6.6%	19	5.6%	11	7.3%	0	0.0%
人との交流を盛んにする	220	21.4%	14	31.1%	19	19.6%	39	23.4%	46	20.4%	73	21.5%	29	19.3%	0	0.0%
地域の絆を高めるために行事などに参加する	233	22.6%	8	17.8%	24	24.7%	36	21.6%	51	22.6%	83	24.4%	30	20.0%	1	25.0%
地域のことを知る、学ぶ	151	14.7%	9	20.0%	14	14.4%	32	19.2%	35	15.5%	44	12.9%	17	11.3%	0	0.0%
地域の福祉活動などに寄与する、参加する	90	8.7%	2	4.4%	4	4.1%	10	6.0%	16	7.1%	40	11.8%	17	11.3%	1	25.0%
地域の清掃活動を行う	92	8.9%	2	4.4%	11	11.3%	6	3.6%	23	10.2%	29	8.5%	21	14.0%	0	0.0%
地域の学校へのボランティア活動に参加する	66	6.4%	0	0.0%	8	8.2%	12	7.2%	13	5.8%	19	5.6%	13	8.7%	1	25.0%
特にない	74	7.2%	2	4.4%	10	10.3%	14	8.4%	21	9.3%	20	5.9%	7	4.7%	0	0.0%
その他	16	1.6%	1	2.2%	2	2.1%	2	1.2%	4	1.8%	5	1.5%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	15	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	2	0.9%	8	2.4%	3	2.0%	1	25.0%
合計	1,029	100.0%	45	100.0%	97	100.0%	167	100.0%	226	100.0%	340	100.0%	150	100.0%	4	100.0%

小千谷市社会教育委員名簿

(敬称略)

区 分	氏 名	備 考
委員長	藤 井 和 夫	
副委員長	日 岡 孝 子	
委 員	佐 藤 務	
委 員	前 澤 正 人	
委 員	上 村 敏 明	
委 員	小 杉 孝 之	平成 30 年 4 月 1 日～
委 員	瀬 沼 新 作	平成 30 年 7 月 1 日～
委 員	山 岸 拓 詩	
委 員	片 岡 朋 子	
委 員	須 田 康 子	平成 30 年 4 月 1 日～
委 員	鈴 木 弘 巳	
委 員	高 野 真 弓	

第2次小千谷市生涯学習推進計画策定経過

年 月 日	会 議 名 等	内 容 等
平成30年2月23日	平成29年度第2回社会教育委員会	・第2次小千谷市生涯学習推進計画策定の概要説明及び諮問
平成30年6月13日	平成30年度第1回社会教育委員会	・市民アンケート「生涯学習に関する意識調査」(案) 協議
平成30年6月28日 ～7月18日	市民アンケート「生涯学習に関する意識調査」実施	・市民18歳以上、1,000人、無作為抽出アンケート
平成31年1月21日	平成30年度第2回社会教育委員会	・第2次小千谷市生涯学習推進計画(案) 協議
平成31年1月26日 ～2月17日	生涯学習推進計画(案) パブリックコメント	・市民からの意見募集 (広報、ホームページ)
平成31年3月11日	平成30年度第3回社会教育委員会	・第2次小千谷市生涯学習推進計画(案) 答申
平成31年3月26日	教育委員会	・第2次小千谷市生涯学習推進計画(案) 承認

第 2 次小千谷市生涯学習推進計画

平成 31 年 3 月

発 行／小千谷市教育委員会 生涯学習課

〒947-0031 新潟県小千谷市土川 1-3-3

TEL／0258 (82) 9111

FAX／0258 (82) 9112

E-mail／syougai-sk@city.ojiya.niigata.jp
